SONY

リニアPCMレコーダー

取扱説明書

PCM-D100 の特長

準備

録音

再生

編集

パソコンの活用

メニュー操作

その他

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 **電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。**

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

⚠警告　安全のために

本製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、まちがった使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

この取扱説明書の注意事項をよくお読みください。

定期的に点検する

1年に1度は、ACアダプターのプラグ部とコンセントの間にほこりがたまっていないか、故障したまま使用していないか、などを点検してください。

故障したら使わない

動作がおかしくなったり、ACアダプターや充電器などが破損しているのに気づいたら、すぐにソニーサービス窓口に修理をご依頼ください。

万一、異常が起きたら

変な音・においがしたら、煙が出たら

1 POWERスイッチをOFFにします。
2 本体から電池を取り出します。
3 ACアダプターを使用しているときは、コンセントから抜きます。
4 ソニーサービス窓口に修理を依頼します。

警告表示の意味

本書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠危険

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。

⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号	火災	感電
行為を禁止する記号	禁止	接触禁止
	ぬれ手禁止	分解禁止
行為を指示する記号	指示	

- 本製品の不具合により、録音や再生ができなかった場合、および録音内容が破損または消去された場合など、いかなる場合においても録音内容の補償についてはご容赦ください。
  また、いかなる場合においても、当社にて録音内容の修復、復元、複製などはいたしません。
- 本製品を使用したことによって生じた金銭上の損害、逸失利益および第三者からのいかなる請求につきましても、当社は一切その責任を負いかねます。
- 録り直しのきかない録音の場合は、必ず事前にためし録りをしてください。
- あなたが録音したものは個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

バックアップのおすすめ

万一の誤消去や、レコーダーの故障などによるデータの消滅や破損にそなえ、大切な録音内容は、必ず予備として、パソコンなどにバックアップしてください。

⚠警告 火災 感電 **下記の注意事項を守らないと火災・感電・人身事故の原因となることがあります。**

禁止 運転中は使用しない

- 自動車、オートバイなどの運転をしながらヘッドホンを使用したり、細かい操作をしたり、表示画面を見ることは絶対におやめください。交通事故の原因となります。
- 運転中以外でも、踏切や駅のホーム、車の通る道、工事現場など、周囲の音が聞こえないと危険な場所では使用しないでください。
- また、歩きながら使用するときも、事故を防ぐため、周囲の交通や路面状況に充分ご注意ください。

禁止 内部に水や異物を落とさない

水や異物が入ると火災や感電の原因となります。万一、水や異物が入ったときは、すぐにPOWERスイッチをOFFにして、ACアダプターや充電器を使用中ならコンセントから抜き、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご連絡ください。

接触禁止 雷が鳴りだしたら、電源プラグにふれない

感電の原因となります。

禁止 指定以外のACアダプターや充電器を使わない

破裂・液漏れや、過熱などにより、火災、けがや周囲の汚損の原因となります。

禁止 湿気やほこり、油煙、湯気の多い場所や、直射日光のあたる場所には置かない

火災や感電の原因となることがあります。
とくに風呂場では絶対に使用しないでください。

ぬれ手禁止 濡れた手でACアダプターをさわらない

感電の原因になります

禁止 本体やACアダプターを布団でおおった状態にしない

熱がこもってケースが変形したり、火災の原因となることがあります。

マニュアルについて

紙で見る

本書（取扱説明書）

リニアPCMレコーダーの操作情報を記載しています。

Sound Forge Audio Studio LEを使う（別冊）

パソコンにインストールできるソフト「Sound Forge Audio Studio LE」のインストール方法やできること、基本的な操作方法などを記載しています。

パソコン、スマートホン、タブレットで見る

ヘルプガイド

パソコンでリニアPCMレコーダーを楽しむ情報も含めた詳細な情報や、困ったときの対処方法をヘルプガイドページ（http://rd1.sony.net/help/icd/pcmd100/jp/）で見ることができます。

また、外出先などでスマートホンやタブレット端末でも調べることもできます。

サポートホームページで調べる

リニアPCMレコーダー「サポート・お問い合わせ」のホームページ（http://www.sony.jp/support/ic-recorder/）でトラブルの解決方法や最新情報などを調べることができます。

目次

安全のために …… 2
マニュアルについて …… 5

PCM-D100 の特長

こんなことができます …… 12
楽器演奏の練習に …… 12
屋外での録音に …… 13
高音質なミュージックプレーヤーとして …… 13
PCM-D100で録音、再生可能な音声ファイル形式 …… 14

準備

各部の名前と働き …… 15
箱の中身を確認する …… 22
準備1：電源を準備する …… 23
電池を入れる …… 23
電源を入れる …… 24
電源を切る …… 24
準備2：時計を合わせる …… 26
お買い上げ後すぐに時計を合わせる …… 26
ホームメニュー、オプションメニューの使いかた …… 27
ホームメニューで使いたい機能を選ぶ …… 27
オプションメニューで設定する …… 27
メモリーカードを使う …… 28
メモリーカードを入れる …… 28
メモリーを切り換えるには …… 29

ファイルを選ぶ……31
フォルダリストからファイルを選ぶ……31
カレンダーの日付からファイルを選ぶ……32
リモコンを使って操作する……33
ワイヤレスリモコンに電池を入れる……33
受信ユニットを接続する……34
送信ユニットで操作する……34
リモコンのチャンネルを変更する……34
誤操作を防止する(ホールド)……36

録音

録音前の準備……37
例：内蔵マイクロホンを使って楽器の演奏を録音する場合の設置……37
両方のマイクロホンを内側(90°の位置)に向けた場合
(X-Yポジション)……37
両方のマイクロホンを外側(120°の位置)に向けた場合
(ワイド・ステレオポジション)……38
マイク入力の感度を切り換えるには……38
録音されるノイズを軽減するには……38
アナログ入力の録音……40
内蔵マイクロホンを使って録音する……40
録音中の音を聞く(録音モニター)……43
録音開始の少し前から録音する(プリレコーディング)……44

接続して録音する……45
外部マイクロホンを使う……45
外部機器から録音する(ライン入力)……45
デジタル録音……46
外部機器からデジタル信号を録音する……47
再生に同期して録音を開始する(デジタルシンクロ録音)……48
メモリーを切り換えて録音を続ける(クロスメモリー録音)……49

再生

ファイルを再生する……50
ファイルを繰り返し再生する(1件リピート)……52
必要な部分だけを再生する(A-Bリピート)……52
聞きたいところをすばやく探す(イージーサーチ機能)……53
再生音質を選ぶ……54
音質を切り換える(エフェクト)……54
音程を調節する(キーコントロール)……54
再生速度を調節する(DPC)……55
再生音質を調節する(アップサンプリング)……55
外部機器に接続して再生する……56
アナログ機器に接続する場合……56
デジタル機器に接続する場合……56

編集

フォルダ内のファイルを整理する……57
ファイルを別のフォルダに移動する……57
ファイルを別のフォルダにコピーする……58
ファイルを並べ換えるには……58
トラックマークを使う……59
トラックマークを付ける……59
トラックマークを消去する……60
フェードイン／フェードアウトを設定する……61
ファイルを分割する……62
現在位置で分割する……62
すべてのトラックマーク位置で分割する……62
ファイルを結合する……64
ファイルを消去する……65
1ファイルを選んで消去する……65
フォルダの中身を一度に消去する……65
ファイルを保護する……66
ファンクションキー（F1 ／ F2)に機能を登録する……67

パソコンの活用

パソコンにつないで使う……68
リニアPCMレコーダーをパソコンに接続する……69
フォルダとファイルの構成……70
　内蔵メモリーの場合……70
　メモリースティック™の場合……71
　SDカードの場合……71
リニアPCMレコーダーをパソコンから取りはずす……72

メニュー操作

オプションメニュー項目一覧……73
各種設定メニュー項目一覧……75

その他

使用上のご注意……81
故障？と思われたときは……83
　困ったときは……83
　症状から調べる……84
メッセージ一覧……88
システム上の制約……91
保証書とアフターサービス……92
　保証書……92
　アフターサービス……92

主な仕様 ····· 93
必要なシステム構成 ····· 93
リニアPCMレコーダーの仕様 ····· 94
⚠注意 ····· 100
電池についての安全上のご注意 ····· 101
著作権と商標とライセンスについて ····· 102
著作権について ····· 102
商標について ····· 102
ライセンスについて ····· 103
索引 ····· 104

こんなことができます

楽器演奏の練習に

- 内蔵マイクロホンで簡単に録音できます。複雑なマイクセッティングは不要です。
- “デジタルピッチコントロール”（DPC）で速聴き・遅聴きができます。（55 ページ）
  また、“キーコントロール”で音程の上下を調節できます。お手本となる楽曲をリニアPCMレコーダーで再生したり、音程に合わせた伴奏でボーカル練習するのに最適です。（54 ページ）
- 付属のワイヤレスリモコン（受信ユニット／送信ユニット）で離れた場所から録音開始／停止、再生開始／停止などの操作ができます。（34 ページ）
- 別売の三脚に取り付けられます。
- クロスメモリー機能を使って、内蔵メモリーからメモリーカードに録音ファイルの保存先を自動的に切り換え、長時間の録音ができます。（49 ページ）

屋外での録音に

- 15mm口径の高感度内蔵マイクロホンで手軽に録音ができます。
- 別売の外部マイクロホンも接続可能です。(ステレオミニプラグ)
- 付属のウィンドスクリーンを使うと、屋外の風切音を低減できます。(39 ページ)
- プリレコーディング機能を使うと、録音スタートの5秒前にさかのぼって音源を記録できます。(44 ページ)
- 余裕のロングバッテリーライフを実現、単3形アルカリ乾電池4本で約8時間の録音ができます。
- 付属のキャリングケースは、リニアPCMレコーダーの持ち運びに最適です。キャリングケースのベルトストラップで腰に取り付けて携帯可能です。

高音質なミュージックプレーヤーとして

- 外部機器からのデジタル録音に対応していますので、ミュージックライブラリーをデジタルでそのまま記録できます。
- パソコンや外部機器との間で、デジタル音声の転送をすることができます。リニアPCMレコーダーの音声をパソコンに転送して保存したり、パソコンの音声を転送してリニアPCMレコーダーで再生したり、さらに外部機器に転送して再生したり、さまざまな音楽の楽しみかたができます。

PCM-D100で録音、再生可能な音声ファイル形式

リニアPCMレコーダーでは、DSD、LPCM、MP3のファイル形式での高音質録音が可能です。また、多彩なファイル形式（DSD、LPCM、FLAC、AAC、MP3、WMA）の再生に対応しています。

DSD（Direct Stream Digital）

スーパーオーディオCDにも採用されている技術です。これまでのCDやDVD、PCサウンドなどのデジタルオーディオではLPCM方式を利用していましたが、DSD方式はLPCM方式とはまったく異なるデジタルオーディオ方式です。音声信号の大小を1ビットのデジタルパルスの濃度（濃淡）で表現し、これまでにない高音質を実現。従来のLPCM方式の「デジタル感」を払拭し、原音を限りなく忠実に再現しています。

DSD
Direct Stream Digital

ご注意

- LPCMよりも高音質で録音することができますが、一般的なパソコンでは再生できないファイル形式（.dsf）でデータが作成されます。そのため、録音データはPCM-D100で再生するか、DSDファイル形式に対応した機器で再生、編集してください。
- 付属のパソコン用ソフトウェアSound Forge Audio Studio LEでは、DSD形式のファイルは扱えません。ご注意ください。
- DSD形式のファイルを本機の編集機能で編集した場合、ノイズが発生することがあります。

LPCM（Linear Pulse Code Modulation）

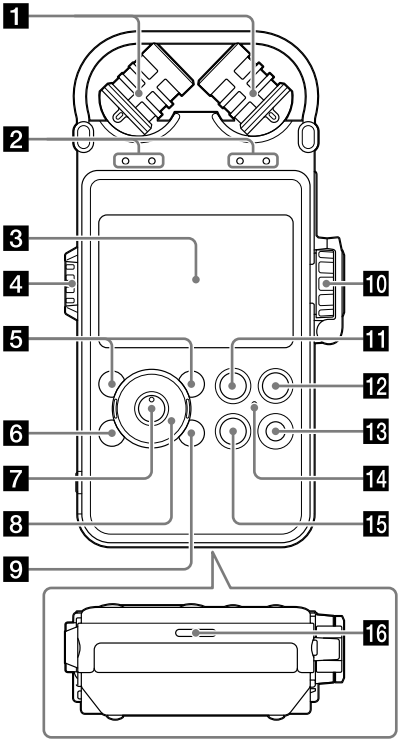
録音時に音源を圧縮せず、純粋な音のまま録音するデジタルオーディオ方式です。
原音のひとつひとつをありのまま録音することで、音の織りなす表情や存在感までもリアルに記録できます。レコーディングスタジオのスタンダードフォーマットとして使用されている96kHz 24ビットでの録音では、DAT（48 kHz 16ビット）や音楽CD（44.1 kHz 16ビット）を超える密度の高い音質での録音が可能です。さらに低域から高域までフラットな周波数特性を実現しているため、豊かな音質で録音できます。
一般的なパソコンで再生できるファイル形式（.wav）でデータが作成されます。
汎用性を求める場合はこちらの形式で録音してください。

MP3

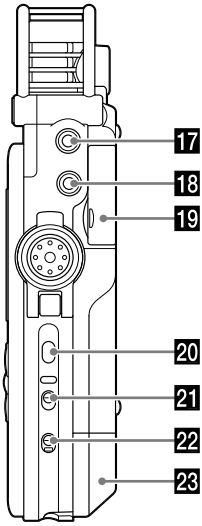
ファイルサイズを小さくするために音声データを圧縮しています。
人の耳に聞こえづらい領域のデータを間引いて圧縮していますが、LPCMに比べて音質は劣ります。
インターネットでのファイル共有や、ファイルサイズを小さくしたい場合は、こちらの形式で録音してください。

各部の名前と働き

本体前面



本体右側面



次のページへ続く…▶

1 内蔵マイクロホン（40 ページ）

2 ピークレベルランプ（L ／ R）（42 ページ）
入力レベルに応じて、「–12dB」（緑）と「OVER」（赤）のランプでピークレベルを確認できます。

3 表示窓（20 ページ）

4 ボリュームダイヤル（43、50 ページ）
ダイヤルを回し、表示窓横の「ー」の位置にレベル（0 ～ 10）を合わせ、再生時の音量を調節します。

5 F1 ／ F2（ファンクション1 ／ 2）ボタン（67 ページ）
よく使う機能を登録することができます。

6 HOME ／ BACK（ホーム／戻る）ボタン（27 ページ）
HOME ／ BACKボタンを押すと前画面に戻り、1秒以上押すと、ホームメニューが表示されます。

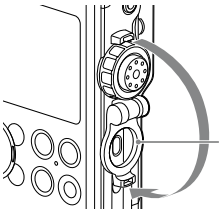
7 ►（再生／決定）[*1]ボタン

8 コントロールボタン（▲（上）、▼（下）、I◄◄（早戻し）、►►I（早送り））

9 OPTION（オプション）ボタン（27 ページ）
OPTIONボタンを押すと、オプションメニューが表示されます。

10 REC LEVEL（録音レベル）ダイヤル（41 ページ）
REC LEVELダイヤルを回し、表示窓横の「ー」の位置にレベル（0 ～ 10）を合わせ、録音時の音量を調節します。
外側のダイヤルを回すと、左右両方のチャンネルの録音レベルを調節します。左右のチャンネルの録音レベルのバランスを変えたい場合は、内側のダイヤルを押しながら、回します。

REC LEVELダイヤルガードについて
誤操作を防ぐために、通常はREC LEVELダイヤルガードを閉じてお使いください。録音レベルを調節するときは、下の図のようにREC LEVELダイヤルガードを開けてください。



11 ❚❚PAUSE（一時停止）ボタン／ランプ（42、51 ページ）

12 ●REC（録音）ボタン／ランプ（41 ページ）

13 T-MARK（トラックマーク）ボタン（59 ページ）

14 ACCESS（アクセス）ランプ（24、28、79 ページ）
メモリーへのアクセス中に点滅します。

15 ■STOP（停止）ボタン（42、51 ページ）

16 内蔵スピーカー（50 ページ）

17 MIC（マイクロホン）ジャック（45 ページ）

18 LINE IN（OPT）（ライン入力（光））ジャック（45、47、48 ページ）

19 メモリースティック™ ／ SDカードスロット（28 ページ）[*2]

20 LIGHT（ライト）ボタン
表示窓のバックライトを点灯／消灯します。

21 POWER（電源）スイッチ（24 ページ）

電源を「ON」／「OFF」（入／切）します。

22 HOLD（ホールド）スイッチ（36 ページ）

「ON」側にずらすと、ボタン操作が働かなくなり、誤操作を防ぎます。録音／再生中は、常に「ON」位置にしておくことをお奨めします。解除するときは、「OFF」側にずらします。

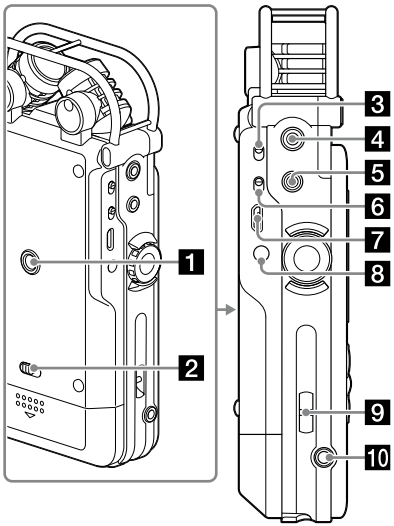
23 電池ぶた（23 ページ）

*1 凸点（突起）がついています。操作の目安、端子の識別としてお使いください。

*2 本書では、メモリースティック™ /SDXC/SDHC/SDメモリーカードを総称して「メモリーカード」と呼びます。また、メモリースティック™ /SDXC/SDHC/SDメモリーカードスロットは「メモリーカードスロット」と呼びます。

次のページへ続く…▶

本体左側面



1 三脚取り付け用穴

2 電池ぶたロックレバー（23 ページ）

3 INPUT（入力）スイッチ
（40、45、47、48 ページ）
MIC（マイクロホン）に合わせると、内蔵マイクロホンまたはMICジャックに接続したマイクロホンから入力された音声を録音します。「LINE」に合わせると、LINE IN（OPT）ジャックに接続した機器からの音声を録音します。

4 LINE OUT（OPT）（ライン出力（オプティカル））ジャック（56 ページ）

5 ∩（ヘッドホン）ジャック
（43、50 ページ）

6 MIC ATT（マイクアッテネーター）スイッチ
（38 ページ）

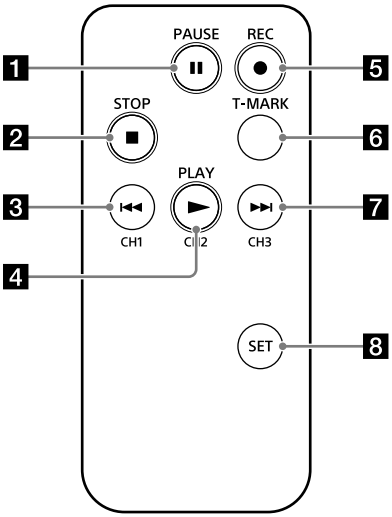
7 USB端子（69 ページ）

8 DC IN 6Vジャック（25 ページ）

9 ストラップ取り付け部
（ストラップは付属していません。）

10 REMOTE（リモート）ジャック
（34 ページ）

リモコン



1 ⏸PAUSE（一時停止）ボタン
（42、51 ページ）

2 ■STOP（停止）ボタン
（42、51 ページ）

3 ⏮ ／ CH1（早戻し／チャンネル1設定）ボタン

4 ▶ PLAY/CH2（再生／チャンネル2設定）ボタン

5 ●REC（録音）ボタン（41 ページ）

6 T-MARK（トラックマーク）ボタン
（59 ページ）
現在の位置にトラックマークを追加します。

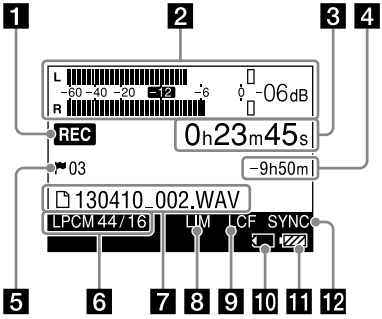
7 ⏭/CH3（早送り／チャンネル3設定）ボタン

8 SET（設定）ボタン（34 ページ）
SETボタンを押しながら、CH1、CH2、またはCH3ボタンを押して、リモコンに割り当てるチャンネルを設定します。

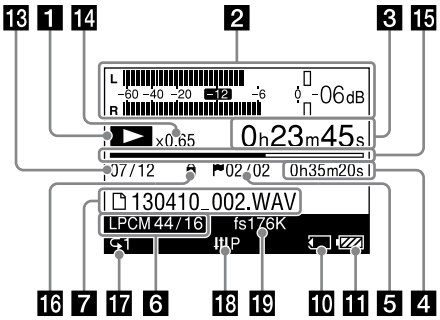
次のページへ続く…▶

表示窓

■録音画面



■再生画面



ご注意
「表示窓」に記載の画面は、画面機能の説明のため、一部実際の画面表示とは異なる場合があります。

1 録音／再生状態

リニアPCMレコーダーの操作状態に応じて、下記の表示が出ます。

REC	録音
● II（点滅）	録音一時停止、録音スタンバイ
▶	再生
▶II（点滅）	再生一時停止
■	停止
◀◀ / ▶▶	早戻し／早送り再生
⏮ / ⏭	連続トラック戻し／送り

2 レベルメーター／ピーク値（41 ページ）

レベルメーターとピーク値の最大値を数値で表示します。設定値を超えた場合は OVER と表示されます。

3 録音／再生経過時間情報

4 録音可能時間／ファイルの長さ

録音時：録音可能時間を時、分、秒で表示します。
10時間以上：時間
10時間未満、10分以上：時間、分
10分未満：分、秒
再生時：ファイルの長さを表示します。

5 トラックマーク表示（59 ページ）

現在位置のトラックマーク番号が表示されます。トラックマークが設定されているときにだけ表示されます。

6 録音モード（75 ページ）

停止中はメニューで設定されている録音モードが、録音／再生中は現在のファイルの録音モードが表示されます。

7 ファイル名／フォルダ名

録音時、再生時、または録音／再生一時停止時にファイル名が表示されます。

録音停止または録音スタンバイ状態のときは、フォルダ名（例：FOLDER01）が表示されます。

8 リミッター／ S/N 100dB設定（76、77 ページ）

メニューの「リミッター」設定または「S/N 100dB」設定が有効なときに表示されます。

9 LCF設定（77 ページ）

メニューの「LCF(Low Cut)」設定が有効なときに表示されます。

10 メモリーカード表示

使用中のメモリーが「メモリーカード」のときに表示されます。

11 電池残量（24 ページ）

12 シンクロ録音設定（48 ページ）

メニューの「デジタルシンクロ録音」の設定が「オン」のときに表示されます。

13 ファイル位置情報表示

選んだファイル番号が分子に、フォルダ内の総ファイル数が分母に表示されます。

14 DPC速度表示（55 ページ）

メニューの「DPC（速度調節）」で設定している再生スピードが表示されます。

15 プログレスバー

再生の進行状況が表示されます。

16 保護表示（66 ページ）

ファイルが保護されているときに表示されます。

17 再生モード表示（79 ページ）

通常再生、連続、リピート再生、シャッフル再生などの再生モードが表示されます。

18 エフェクト設定（54 ページ）

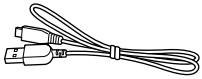
メニューの「エフェクト」で選択されているエフェクトが表示されます。

19 アップサンプリング情報（55 ページ）

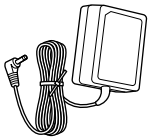
アップサンプリングの周波数が表示されます。

箱の中身を確認する

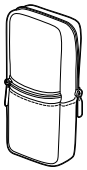
- 本体(1)
- USBケーブル(1)
  キャリングケースの中に収納されています。



- ACアダプター（6V)(1)



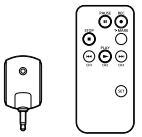
- キャリングケース(1)



外側の袋にはリモコン(送信ユニット)、内側のポケットには電池と電池ケースを収納できます。

- ウィンドスクリーン(1)

- ワイヤレスリモコン(受信ユニット(1)、送信ユニット(1))
  キャリングケースの中に収納されています。



- 単3形アルカリ乾電池(4)
  キャリングケースの中に収納されています。
- アプリケーションディスク（「Sound Forge Audio Studio LE」)(1)
- 取扱説明書(本書)(1)
- Sound Forge Audio Studio LEを使う(1)
  「Sound Forge Audio Studio LE」は、パソコンでの加工やCD作成をサポートするアプリケーションソフトウェアです。ソフトウェアの紹介とインストールの方法については、「Sound Forge Audio Studio LE を使う」をご覧ください。
- 保証書(1)
- 「製品登録」のおすすめ(1)

ご注意
Sound Forge Audio Studio LEでは本機で録音したDSD形式のファイルは扱えませんので、ご注意ください。

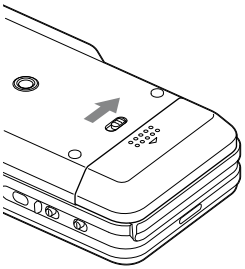
この取扱説明書で説明している以外の変更や改造を行った場合、リニアPCMレコーダーを使用できなくなることがありますので、ご注意ください。

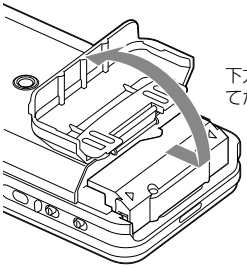
準備1：電源を準備する

電池を入れる

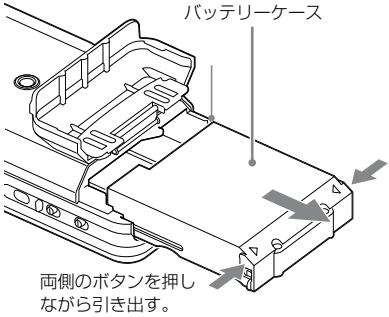
付属の単3形アルカリ乾電池4個を使用します。

1 本体後面の電池ぶたロックレバーを「RELEASE」の位置に合わせてロックを解除して、電池ぶたを開けます。



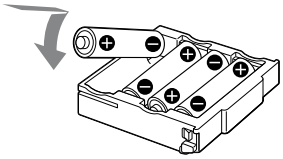


2 本体からバッテリーケースを取り出します。



3 電池4個を、取り出したバッテリーケースに入れます。

電池の⊕と⊖の向きを正しく入れてください。



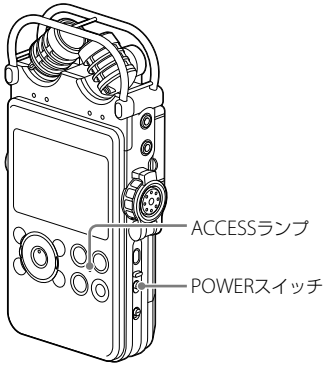
4 バッテリーケースを本体の元の位置に入れ、電池ぶたを閉めます。

Information

- 本体からバッテリーケースを取り出すときは、リニアPCMレコーダーの電源を切ってください。
- バッテリーケースを入れたら、電池ぶたロックレバーが「LOCK」の位置でロックされるように、必ず電池ぶたをきちんと閉じてください。

次のページへ続く…▶

電源を入れる



POWERスイッチを「ON」の位置に合わせて電源を入れると、表示窓に「Power On」、続いて「しばらくお待ちください」と表示されます。また、ACCESSランプが点滅し、動作に必要な情報を読み込みます。

お買い上げ後初めて電源を入れると

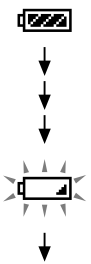
お買い上げ時は時計が設定されていないため、時計設定画面に変わります。

電源を切る

POWERスイッチを「OFF」に合わせます。表示窓に「電源オフ」と表示され、電源が切れます。

電池の交換時期

電池を使用しているとき、表示窓に電池残量が表示されます。



「電池残量がありません」とメッセージが表示されます。電池が完全に消耗したため、操作ができなくなります。

Information

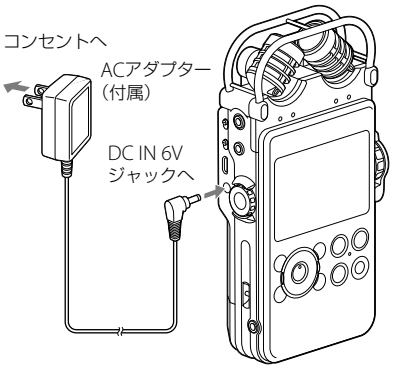
- 電池で使用しているときは、停止状態で操作をしないまま放置していると、10分後に表示が消えてスリープ状態になります。
- 最後に電源を切ってから4時間以内に再度電源を入れた場合は、すばやく起動します。
  電源を切る前の画面がすぐに表示されます。

充電式の電池を使用する場合のご注意

- リニアPCMレコーダーでは、充電式電池も使用できます。
- リニアPCMレコーダーでは充電はできません。
- 充電式電池をご使用の際は、ホームメニューから「各種設定」－「共通設定」－「電池設定」を選び、「ニッケル水素電池」に設定してください。

ACアダプターを接続して使うには

付属のACアダプターをDC IN 6Vジャックに接続します。



Information

- 表示窓に「しばらくお待ちください」と表示されている間や、ACCESSランプが点滅している間は、メモリーへアクセス中です。アクセス中は、電池をはずしたり、ACアダプターを抜いたり、USBケーブルを抜き差ししたりしないでください。データが破損する恐れがあります。

準備2：時計を合わせる

リニアPCMレコーダーは、本体内時計の日時をもとに、録音した音声ファイルの名前を付けます。あらかじめ時計を合わせておくと、録音日時を正確に記録できます。

お買い上げ後すぐに時計を合わせる

時計が設定されていない状態で電源を入れると、「時計を設定してください」と表示されます。しらばくするとメッセージが自動的に消え、「時計を設定しますか？」と表示されます。

1 **I◀◀または▶▶Iで「はい」を選び、►ボタンを押して決定します。**
「時計設定」画面が表示されます。

2 **▲または▼で年(y)を合わせ、►ボタンを押して決定します。**

I◀◀または▶▶Iボタンを押すと、年、月、日、時、分を移動できます。

3 **同様に、月(m)、日(d)、時、分を合わせます。分を合わせて►ボタンを押します。**
「設定しました」と表示され、時計が動き始めます。

時計を設定し直すときは

1 停止中に、HOME ／ BACKボタンを1秒以上押して、ホームメニュー画面を表示します。

2 ▲または▼で「各種設定」を選び、►ボタンを押して決定します。
「各種設定」画面が表示されます。

3 ▲または▼で「共通設定」を選び、►ボタンを押して決定します。
「共通設定」画面が表示されます。

4 ▲または▼で「時計設定」を選び、►ボタンを押して決定します。
「時計設定」画面が表示されます。

5 現在の時刻設定が選択されている状態で、►ボタンを押します。

6 ▲または▼で年(y)を合わせ、►ボタンを押して決定します。

7 同様に、月(m)、日(d)、時、分を合わせます。
I◀◀または▶▶Iを押すと、年、月、日、時、分を移動できます。
分を合わせて►ボタンを押すと、「設定しました」と表示され、時計が動き始めます。

Information

- 電池を抜いたまま数週間放置すると、時計はお買い上げ時の設定に戻ります。この場合は、時計を設定し直してください。

ホームメニュー、オプションメニューの使いかた

ホームメニューで使いたい機能を選ぶ

HOME ／ BACKボタンを1秒以上押すと、リニアPCMレコーダーの各機能の入り口になっているホームメニューが表示されます。ここから各機能を選んだり、設定を変更したりできます。

1 HOME ／ BACKボタンを1秒以上押します。

ホームメニュー画面が表示されます。

2 ▲または▼を押して使いたい機能を選び、►ボタンを押します。

以下の機能を選択できます。

録音	録音画面を表示します。録音を開始するには、●RECボタンを押します。
録音したファイル	録音したファイルを選んで、再生できます。
ミュージック	パソコンから転送した音楽ファイルを選んで、再生できます。
各種設定	各種設定メニューを表示して、リニアPCMレコーダーのさまざまな設定ができます。
録音画面へ／再生画面へ	ホームメニューに入る前に表示していた画面に戻ります。

3 設定が必要な画面が表示された場合は、▲または▼を押して設定したい項目を選び、►ボタンをして決定します。

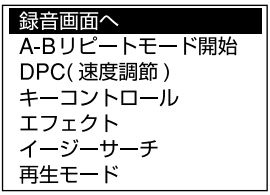
4 ▲または▼を押して設定内容を選び、►ボタンをして決定します。

オプションメニューで設定する

OPTIONボタンを押すと、リニアPCMレコーダーの各機能に応じたオプションメニューが表示され、設定の変更などができます（73 ページ）。表示されるメニューは、お使いの機能、動作状態によって異なります。

1 ホームメニューで機能を選んだあと、OPTIONボタンを押します。

使用している機能のオプションメニューが表示されます。



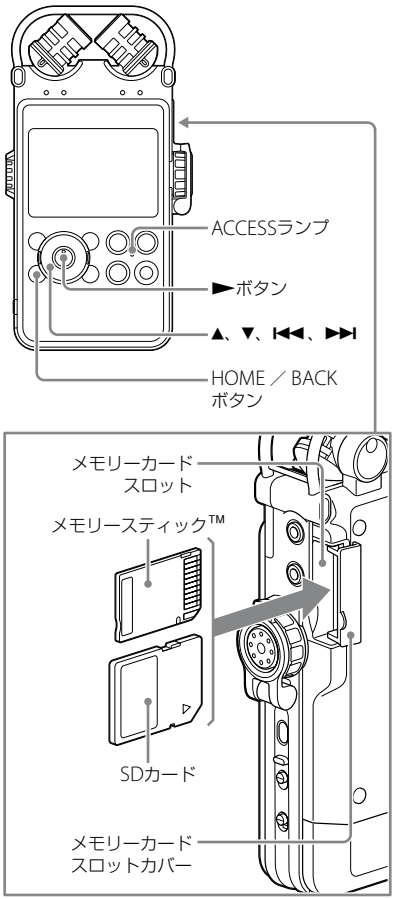
2 ▲または▼を押して設定したい項目を選び、►ボタンをして決定します。

3 ▲または▼を押して設定内容を選び、►ボタンをして決定します。

ヒント

- 1つ前の画面に戻るには、メニュー操作中にHOME ／ BACKボタンを押します。
- 複数ページがある場合は、I◄◄または►►Iを押すと、ページを移動できます。

メモリーカードを使う



リニアPCMレコーダーでは、内蔵メモリーの他に、別売のメモリーカードを使って音声を記録できます。

メモリーカードを入れる

録音する前に、メモリーカードに保存されているデータをパソコンに保存し、リニアPCMレコーダーで初期化(80 ページ)して空の状態にしてからお使いください。

1 メモリーカードスロットのカバーを開けます。

2 左図の向きで、メモリーカードをメモリーカードスロットにカチッと音がするまで奥までしっかり差し込み、カバーを閉めます。

表示窓に「しばらくお待ちください」と表示されて、ACCESSランプが点滅し、動作に必要な情報を読み込みます。

表示窓に「メモリーカードに切り換えますか？」と表示されます。

3 I◄◄または►►Iを押して「はい」を選び、►ボタンを押します。

ご注意

ホームメニューから「録音したファイル」または「♫ミュージック」を選び、ファイルの停止中に、メモリーカードを挿入してください。

録音中や再生中にメモリーカードを入れると、「停止してからメモリーカードを再挿入して下さい」と表示されます。

リニアPCMレコーダーで使用できるメモリーカード

リニアPCMレコーダーでは、以下のメモリーカードをお使いになれます。

メモリーカード	対応
SDカード(～ 2 GB)	○
SDHCカード(4 GB ～ 32 GB)	○
SDXCカード(48 GB以上)	△*1
メモリースティック PRO デュオ™ メモリースティック PRO-HG デュオ™ カード(～ 32 GB)	○*2

*1 exFAT*に対応していないパソコンやAV機器などに、リニアPCMレコーダーをUSBケーブルで接続して取り込んだり、再生したりできません。接続する機器がexFATに対応しているかあらかじめご確認ください。対応していない機器に接続した場合、フォーマット画面が表示される場合がありますが、決して実行しないでください。記録した内容がすべて失われます。

* exFATは、SDXCメモリーカードで使用されているファイルシステムです。

*2 リニアPCMレコーダーでお使いになれるメモリースティック™はメモリースティック PRO デュオ™とメモリースティック PRO-HG デュオ™のみです。その他のメモリースティック™は非対応です。

最新の動作確認済みメモリーカードについては、リニアPCMレコーダー「サポート・お問い合わせ」ページ http://www.sony.jp/support/ic-recorder/をご覧ください。

メモリーカードに記録できるファイルのサイズはリニアPCMレコーダーの仕様上、1ファイルにつきLPCM/DSDファイルは2 GB未満、MP3は1 GB未満です。

ご注意

- 対応仕様のメモリーカードでも、すべてのメモリーカードでの動作を保証するものではありません。
- 録音／再生中は、メモリーカードを抜き差ししたり、電池を取り出したり、ACアダプターを抜いたり、USBケーブルを抜き差ししたりしないでください。データが破損する恐れがあります。

メモリーカードを取り出すには

ACCESSランプが消えていることを確認して、メモリーカードを一度奥に押します。手前に出てきたら、メモリーカードスロットから取り出します。

ご注意

表示窓に「しばらくお待ちください」と表示されている間や、ACCESSランプが点滅している間は、メモリーへアクセス中です。アクセス中は、メモリーカードを抜き差ししたり、電池を取り出したり、ACアダプターを抜いたり、USBケーブルを抜き差ししたりしないでください。データが破損する恐れがあります。

メモリーを切り換えるには

1 HOME ／ BACKボタンを1秒以上押して、ホームメニューを表示し、「各種設定」→「共通設定」→「メモリー切り換え」を選び、►ボタンを押します。

「メモリー切り換え」画面が表示されます。

2 ▲または▼を押して、「内蔵メモリー」または「メモリーカード」を選び、►ボタンを押します。

選択したメモリーに切り換わります。

フォルダとファイル構成について

フォルダとファイルの構成は、内蔵メモリーとは異なります。(70、71 ページ)

次のページへ続く…▶

Information

- メモリーカードが認識されない場合はメモリーカードを取り出し、再度入れ直してください。
- 録音／再生／初期化中は、メモリーカードを抜き差ししないでください。故障の原因となります。
- リニアPCMレコーダーで初期化していないメモリーカードをお使いになると、正常に録音ができません。かならずリニアPCMレコーダーで初期化したメモリーカードをお使いください。
- すでにデータが書き込まれているメモリーカードを初期化すると、そのデータが消去されてしまいます。誤って大切なデータを消去することがないよう、ご注意ください。
- 表示窓に「しばらくお待ちください」と表示されている間や、ACCESSランプが点滅している間は、メモリーへアクセス中です。アクセス中は、メモリーカードを取り出さないでください。データが破損する恐れがあります。
- リニアPCMレコーダーはパラレルデータ転送には対応していません。
- ROMタイプのメモリーカード、誤消去防止、書込み禁止のメモリーカードは、お使いになれません。
- 以下の場合、データが破壊されることがあります。
  - 読み込み中や書き込み中にメモリーカードを取り出したり、リニアPCMレコーダーの電源を切った場合
  - 静電気や電気的ノイズの影響を受ける場所で使用した場合
- メモリーカードスロットの挿入口には、液体・金属・燃えやすいものなど、メモリーカード以外のものは挿入しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- メモリーカードは、小さいお子様の手の届くところに置かないようにしてください。誤って飲み込むおそれがあります。
- お客様の記録したデータの破損（消滅）については、弊社は一切その責任を負いかねますのでご容赦ください。
- 大切なデータは、バックアップを取っておくことをおすすめします。
- 誤消去防止スイッチがついていないメモリーカードをご使用の際は、誤ってデータを編集したり消去したりしないようにご注意ください。
- 端子部には手や金属などを触れないでください。
- 強い衝撃を与えたり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 分解したり、改造したりしないでください。
- 水にぬらさないでください。
- 以下のような場所でのご使用はしないでください。
  - 使用条件範囲以外の場所（炎天下や夏場の窓を閉め切った車の中、直射日光のあたる場所、熱器具の近くなど）
  - 湿気の多い場所や腐食性のものがある場所
- ご使用の際は正しい挿入方向をご確認ください。
- MagicGate™（マジックゲート）は、ソニーが開発した、著作権を保護する技術の総称です。お使いのリニアPCMレコーダーは、MagicGate™によるデータ録音、再生には対応していません。

ファイルを選ぶ

フォルダリストからファイルを選ぶ

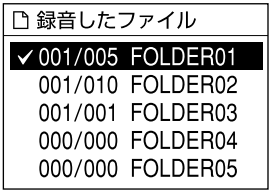
ホームメニューから再生、編集するファイルを選べます。

1 HOME ／ BACKボタンを1秒以上押して、ホームメニューを表示します。

ホームメニュー画面が表示されます。

2 ▲または▼で「録音したファイル」または「♫ミュージック」を選び、►ボタンを押します。

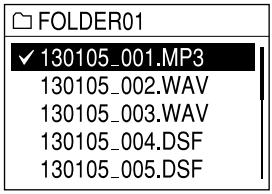
フォルダリストが表示されます。複数のページがある場合は、⏮または⏭ボタンを押してページ送り、戻しができます。



3 ▲または▼を押してフォルダを選び、►ボタンを押します。

ファイル選択画面が表示されます。

4 ▲または▼を押して、ファイルを選び、►ボタンを押します。



Information

- 再生停止画面が表示されているときは、⏮または⏭を押してファイルを切り換えられます。
- お買い上げ時、「録音したファイル」にはFOLDER01 ～ 05の5個のフォルダが作成されています。
- メモリーの切り換え（内蔵メモリーまたはメモリーカード）については、「メモリーを切り換えるには」（29 ページ）をご覧ください。

次のページへ続く…▶

カレンダーの日付からファイルを選ぶ

リニアPCMレコーダーで録音したファイルを、カレンダーから検索して再生できます。

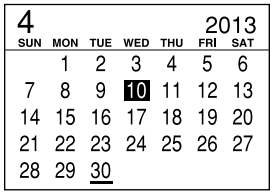
1 HOME ／ BACKボタンを1秒以上押して、ホームメニューを表示します。

2 ▲または▼で「録音したファイル」を選び、►ボタンを押します。
フォルダリストが表示されます。

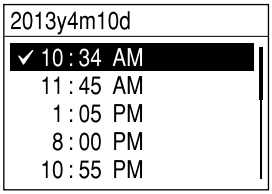
3 OPTIONボタンを押してオプションメニューを表示します。

4 「リスト表示形式」を選び、►ボタンを押します。
「リスト表示形式」画面が表示されます。

5 ▲または▼で「カレンダー表示」を選び、►ボタンを押します。
カレンダーが表示されます。



6 I◄◄または►►Iで日付を選び、►ボタンを押します。
ファイルが存在する日付には下線が表示されます。
▲または▼を押すと、前後の週へ移動します。
それぞれのボタンを1秒以上押すと、連続して移動します。
►ボタンを押すと、選んだ日付に録音されたファイルが録音時刻で表示されます。



7 ▲または▼で、時刻でファイルを選び、►ボタンを押します。
選んだファイルが再生されます。

Information

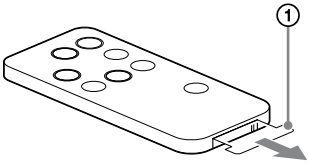
- カレンダーから検索してファイルを再生するには、あらかじめリニアPCMレコーダーの時計を合わせる必要があります(26 ページ)。
- ファイルの存在しない日付を選択して決定した場合は、「ファイルがありません」が表示されます。ファイルが存在する日付を選択してください。
- カレンダーから検索して表示できるのは「録音したファイル」で表示されるファイルだけです。

リモコンを使って操作する

付属のワイヤレスリモコン(受信ユニットと送信ユニット)を使って、リモコン(送信ユニット)から録音などの操作ができます。

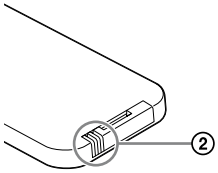
ワイヤレスリモコンに電池を入れる

付属のワイヤレスリモコンは、お買い上げ時は電池が入った状態で、絶縁シートが差し込まれています。
絶縁シート(①)を引き抜いてからご使用ください。

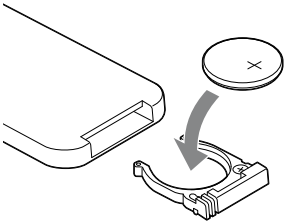


電池が消耗して、ワイヤレスリモコンで操作ができなくなったときは、次の手順で電池を交換してください。

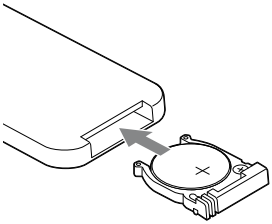
1 タブ(②)を内側に押し込みながら、溝に爪をかけて電池ケースを引き出す。



2 ＋面を上にして新しい電池を電池ケースに入れる。



3 電池ケースを「カチッ」という音がするまで差し込む。



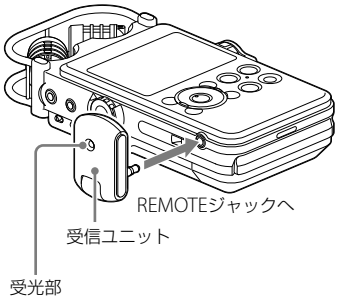
ご注意
ワイヤレスリモコンには、ボタン型リチウム電池(CR2025)が内蔵されています。CR2025以外の電池を使用しないでください。

次のページへ続く…▶

受信ユニットを接続する

REMOTEジャックに、リモコンの受信ユニットを差し込みます。

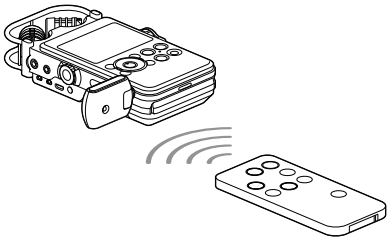
受信ユニットの受光部が送信ユニットの正面を向くように、受信ユニットを回転させてください。



送信ユニットで操作する

送信ユニットのボタンを操作して録音、録音一時停止、停止、再生、トラックマーク登録などの操作を行います。

受信ユニットのLEDは、録音中に点灯、一時停止／スタンバイ中は点滅します。

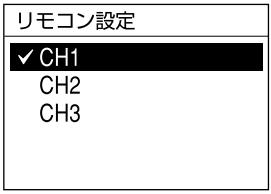


リモコンのチャンネルを変更する

複数のリニアPCMレコーダーをリモコンで操作する場合、混信を防ぐため、各リニアPCMレコーダーに異なるチャンネル数を設定します。

1 停止中に、HOME ／ BACKボタンを1秒以上押して、ホームメニューを表示し、「各種設定」→「共通設定」→「リモコン設定」を選び、►ボタンを押します。

「リモコン設定」画面が表示されます。



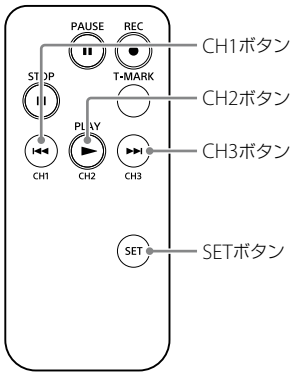
2 ▲または▼でチャンネルを選び、►ボタンを押します。

3 HOME ／ BACKボタンを1秒以上押して、ホームメニューを表示し、「録音」を選び、►ボタンを押します。

録音停止画面が表示されます。

4 リモコンの送信ユニットを受信ユニットの受光部に向けます。

5 送信ユニットのSETボタンを押しながら、チャンネル設定ボタン(CH1、CH2、またはCH3)を押し、「リモコン設定」メニューと同じチャンネル番号を設定します。



設定後、送信ユニットの操作ボタンを押して、リニアPCMレコーダーが操作できれば正しく設定されています。操作できない場合はチャンネル設定をやり直してください。

ご注意

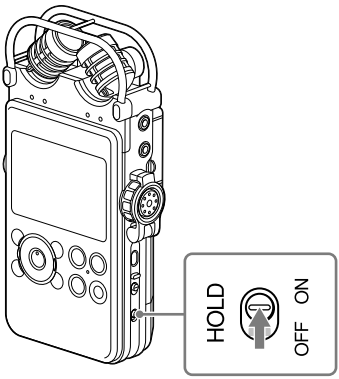
屋外や蛍光灯の下でご使用の際はリモコンで操作可能な距離が短くなることがあります。
蛍光灯から離したり、太陽光の影響を受けないように調整してください。

誤操作を防止する(ホールド)

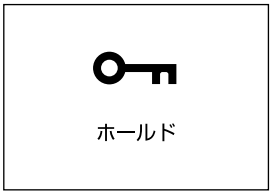
リニアPCMレコーダーを持ち運ぶ際など、誤ってボタンが押されて動作するのを防ぐために、すべてのボタン操作を無効にできます(ホールド)。

ボタン操作をできなくするには

電源が入っているときにボタン操作をできなくするには、HOLDスイッチを「ON」に合わせます。



「ホールド」と約3秒間表示され、すべてのボタン操作が無効になります。



ボタン操作をできるようにするには

ホールドになっているときにボタン操作をすると、「ホールド中　ホールドスイッチを解除してください」と表示されます。

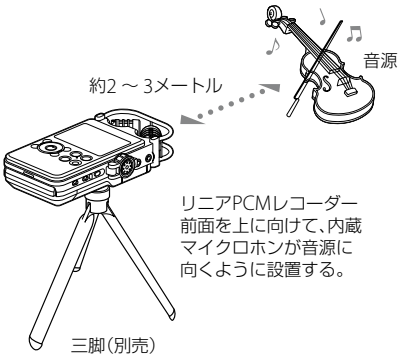
ホールドを解除するには、HOLDスイッチを「OFF」に合わせます。

録音前の準備

リニアPCMレコーダーを設置するときは、内蔵マイクロホンが音源に向くように、マイクロホンの向きを調節します。
左右方向の音を正しく記録するには、リニアPCMレコーダーの前面を上に向けて置いてください(下図参照)。
設置する位置やマイクロホンの向きは、音源や使用するマイクロホン、リニアPCMレコーダーの設定などによって異なりますので、下図やマイクロホンの特性を参考に、いろいろな設置位置での録音をお試しになることをお奨めします。

例：内蔵マイクロホンを使って楽器の演奏を録音する場合の設置

リニアPCMレコーダーと音源の距離は約2 ～ 3メートルとることをお奨めします。内蔵マイクロホンの特性(右記)を考慮しながら、音源に対するリニアPCMレコーダーの向きとマイクロホンの角度を調節してください。

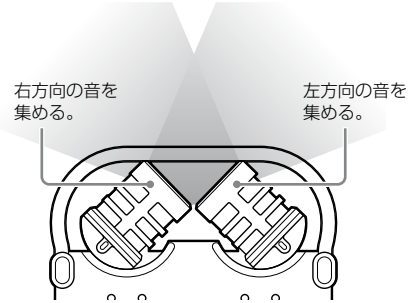


内蔵マイクロホンの特性

内蔵マイクロホンは、単一指向性です。マイクロホンは、向きを変えることができます。

両方のマイクロホンを内側(90°の位置)に向けた場合(X-Yポジション)

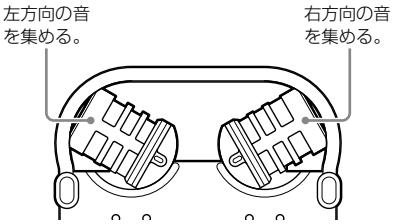
右側に設置されたマイクロホンが左方向の音を、左側に設置されたマイクロホンが右方向の音を拾います。自然で奥行きのあるステレオ感が得られます。ソロ演奏や2 ～ 3人のセッションなど、近い距離での録音にお奨めです。
音源が極端にマイクロホンに近づきすぎると、左右逆に音声が入力されますのでご注意ください。



次のページへ続く…▶

両方のマイクロホンを外側（120°の位置）に向けた場合（ワイド・ステレオポジション）

右側に設置されたマイクロホンが右方向の音を、左側に設置されたマイクロホンが左方向の音を拾います。広がりのあるステレオ感が得られます。コーラスやオーケストラなど大人数の演奏をホールで録音するなど、音源から距離がある場合にお奨めです。



マイク入力の感度を切り換えるには

MIC ATTスイッチを切り換えます。
通常は「0」の位置に合わせておきます。大きい音を録音するときは、「20」の位置に合わせます。

ためし録りをおすすめします

部屋の大きさ、話をする人の声の大きさなど、録音環境は人によってさまざまです。望まれる「音質」も録音対象によって変わってきます。ためし録りは、大切な録音を失敗しないため、また、理想の音質に録音環境を整えるために大変有効なものです。

録音されるノイズを軽減するには

ノイズとして録音される可能性のある音について

リニアPCMレコーダーには、音声以外のさまざまな音が録音されてしまうことがあり、ノイズとして聞こえてしまいます。録音されるノイズには以下のようなものがあります。

- 触れたときの音
- マイクにあたる吐息
- 机に当たる音
- エアコン、プロジェクター、パソコンなどの動作音

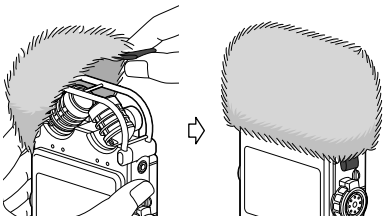
上記のような音が気付かないうちにノイズとして録音されることがあります。録音中は、リニアPCMレコーダーに触ったり、ノイズとして録音される可能性のある音を出さないようにご注意ください。

別売の三脚を使って設置する

本体背面の三脚取り付け用穴に別売の三脚を取り付けると、本体や内蔵マイクロホンの角度をより正確に調節できます。また、手と本体の摩擦により発生しやすいノイズを防げます。

付属のウィンドスクリーンを使う

内蔵マイクロホンに付属のウィンドスクリーンをかぶせると、風や息が直接当たるときに発生する「ボコボコ」という雑音が軽減されます。
黒いタグを引っ張り、ピークレベルランプがすっぽり隠れる深さまでウィンドスクリーンをかぶせてください。



LCF(Low Cut)を設定する

プロジェクターの風切り音などのノイズを低減するには、メニューで、「LCF(Low Cut)」(ローカットフィルタ)を有効に設定します。
HOME ／ BACKボタンを1秒以上押して、ホームメニューを表示し、「🧰 各種設定」→「録音設定」→「LCF(Low Cut)」を選び、►ボタンを押します。詳しい設定方法は、77 ページをご覧ください。

リミッターを設定する

突発的に大きな音の入力があった場合に音のひずみを防ぐには、メニューで「リミッター」を有効に設定します。
HOME ／ BACKボタンを1秒以上押して、ホームメニューを表示し、「🧰 各種設定」→「録音設定」→「リミッター」を選び、►ボタンを押します。詳しい設定方法は、76 ページをご覧ください。

ご注意

リミッターを有効に設定した時は、「S/N 100dB」を「オフ」に設定してください。

S/N 100dB を設定する

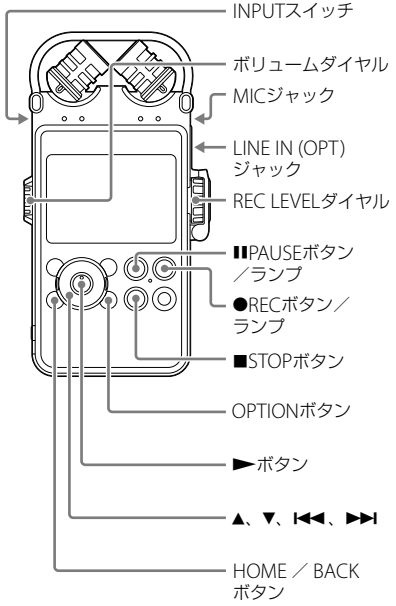
100dBという高いS/N比を使用することにより、小さな録音レベルでもノイズを抑えて録音することができます。この機能をお使いになるには、メニューで「S/N 100dB」を有効に設定します。
HOME ／ BACKボタンを1秒以上押して、ホームメニューを表示し、「🧰 各種設定」→「録音設定」→「S/N 100dB」を選び、►ボタンを押します。詳しい設定方法は、77 ページをご覧ください。

ご注意

- S/N 100dBを有効に設定するとリミッターの設定は無効になります。
- DSDファイルの録音時はリミッターとS/N100dBは無効になります。

アナログ入力の録音

内蔵マイクロホンや外部マイクロホンを使って録音したり、外部機器のライン出力からの信号を録音したりするときのように、アナログの音源を録音する場合です。



内蔵マイクロホンを使って録音する

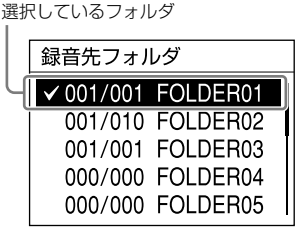
ここでは、内蔵マイクロホンを使って、内蔵メモリーに録音する手順について説明します。
録音モード、録音先フォルダを変更する場合は、メニュー画面から行います。お買い上げ時の録音モードは、LPCM 44.1kHz ／ 16bitに設定されています。

1 「録音前の準備」(37 ページ)を参照して、内蔵マイクロホンや本体を設置します。

2 INPUTスイッチを「MIC」(マイクロホン)の位置に合わせます。

3 HOME ／ BACKボタンを1秒以上押して、ホームメニューを表示し、「🎙録音」を選び、►ボタンを押します。
録音停止画面が表示されます。
録音したファイルを保存する「録音先フォルダ」を変更しない場合は、手順6へお進みください。

4 「録音先フォルダ」を変更するには、OPTIONボタンを押してオプションメニューを表示し、「録音先フォルダ」を選び、►ボタンを押します。
フォルダの選択画面が表示されます。

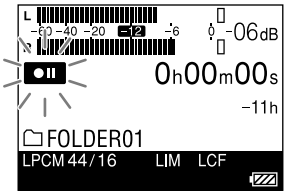


5 ▲または▼で録音したファイルを保存したいフォルダを選び、►ボタンを押して決定します。

ファイルを録音可能なフォルダは、VOICEフォルダ内のフォルダです。
各フォルダ内にそれぞれ199ファイルまで録音できます。

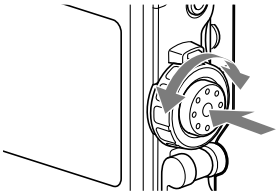
6 ●RECボタンを押します。

録音スタンバイ状態になり、表示窓に ●II が点滅します。



7 REC LEVELダイヤルガードを開け（16 ページ）、REC LEVELダイヤルを前後に回し、表示窓を見ながら、録音レベルを調節します。

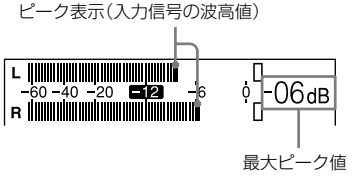
外側のダイヤルを回すと、左右両方のチャンネルの録音レベルを調節します。左右のチャンネルの録音レベルのバランスを変えたい場合は、内側のダイヤルを押しながら、回します。



録音レベルは、ピークレベルランプと表示窓のピークメーターの両方で確認できます。
録音レベルは－12dBを目安に、音源に合った適切な範囲で調整してください。

表示窓のピークメーターで確認する場合

打楽器などの立ち上がりの早い音は、ピークメーターでレベルを確認してください。
最大ピーク値が表示されます。オプションメニューの「ピークホールド」で「マニュアル」を選んでいる場合は、ピーク値の下に PEAK が表示され、オプションメニューの「ピークリセット」でリセットを行うまではピーク値が保持、表示されます（76 ページ）。
最大ピーク値に OVER と表示されると、ひずみが発生する場合があります。

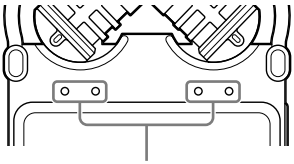


次のページへ続く…▶

ピークレベルランプで確認する場合

左右各チャンネルの入力信号のレベルに応じて、ランプが点灯します。

OVERランプが赤く点灯すると（録音レベルが－1dB以上のとき）、ひずみが発生する場合があります。



ピークレベルランプ
-12dB（緑）：ひずまない録音レベル（－12～－1 dB）です。
OVER（赤）：－1 dB以上になっています。録音レベルを下げてください。

ご注意

デジタル録音中は、ピークレベルランプは点灯しません。

8 録音を開始するには、❚❚PAUSEボタン（または►ボタン）を押します。

録音スタンバイ状態が解除され、録音が始まります。録音中は、表示窓に **REC** が点灯します。

録音を一時停止するには

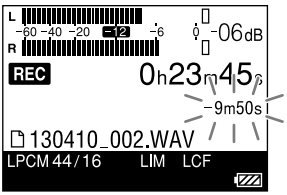
録音中に ❚❚PAUSEボタンを押します。表示窓に **●❚❚** とカウンタ表示が点滅します。もう一度押すと、録音が始まります。リニアPCMレコーダーには、一時停止のタイムアウト機能がありませんので、録音を再開するときは、必ずもう一度❚❚PAUSEボタンを押してください。

録音を停止するには

■STOPボタンを押します。

録音可能残り時間の表示について

録音中に録音可能な残り時間が10分未満になると、表示窓のメモリー残量表示の位置に、残り時間が点滅表示されます。



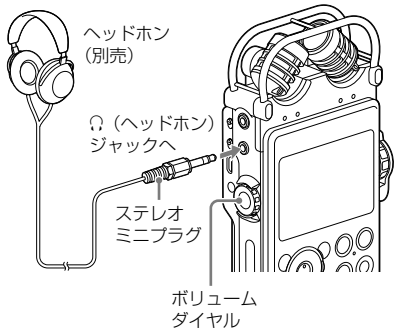
残り時間がなくなると、「メモリーが一杯です」と表示され、録音が停止します。

Information

- 表示窓に **REC** が点灯中は、電池やACアダプターをはずしたり、メモリーカードを抜いたりしないでください。データが破損する恐れがあります。
- 停止状態のまま約10分間操作がないと、画面が消灯し、低消費電力モードになります。ただし、電力は少量でも消費されていますので、お使いにならない場合は電源をお切りください。
  なお、ACアダプターご使用時には画面は消灯しません。
- 録音中、リニアPCMレコーダーに手などがあたったり、こすったりすると雑音が録音されてしまうことがありますので、ご注意ください。
- 録音中に、リニアPCMレコーダーにUSBケーブルを接続しないでください。接続すると、パソコンとの通信を優先するため、録音が停止します。
- 録音中にファイルのファイルサイズが2 GB（LPCM/DSDファイル）または1 GB（MP3ファイル）を超えた場合は、新たなファイルとして録音されます。

録音中の音を聞く（録音モニター）

別売のヘッドホンやイヤホンをリニアPCMレコーダーの🎧（ヘッドホン）ジャックに接続すると、録音中の音をモニターできます。モニター音は、ボリュームダイヤルで調節できます。
録音される音量に影響はありません。

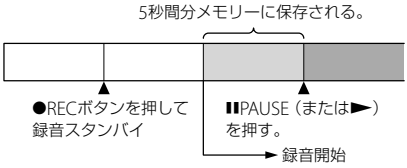


Information

- 録音モニター中に音量を上げすぎたり、ヘッドホンを本体に近づけすぎたりすると、ヘッドホンの音をマイクロホンが拾い、ピーッという音（ハウリング）が生じることがあります。
- 録音モニターには、音漏れの少ない密閉型ヘッドホンを使用することをお奨めします。

録音開始の少し前から録音する（プリレコーディング）

録音を開始した時点の約5秒前の音から録音を開始することができます。



1 HOME ／ BACKボタンを1秒以上押して、ホームメニューを表示し、「録音」を選び、►ボタンを押します。

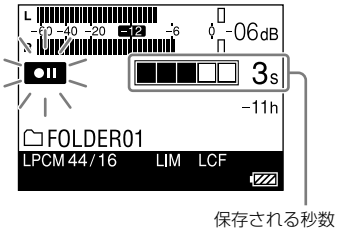
録音停止画面が表示されます。

2 OPTIONボタンを押してオプションメニューを表示し、「プリレコーディング」を選び、►ボタンを押します。

3 ▲または▼で「オン」を選び、►ボタンを押します。

4 ●RECボタンを押します。

録音スタンバイ状態になり、表示窓に ●❚❚ が点滅します。最新の約5秒間分の音声がメモリーに一時保存されます。



5 録音をするには ❚❚PAUSEボタン（または ►ボタン）を押します。

録音スタンバイ状態が解除され、録音が始まります。録音を開始した時点より最大5秒前の音から録音します。

Information

- 録音可能残り時間が10秒未満のときにはプリレコーディングはできません。
- デジタル録音時は、プリレコーディングはできません。
- 手順4から手順5までの時間が5秒以上経過していないときは、その時間分しかプリレコーディングは行われません。

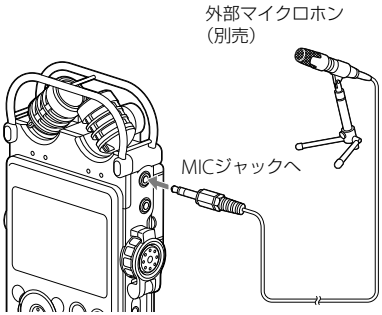
接続して録音する

外部マイクロホンを使う

別売の外部マイクロホンをリニアPCMレコーダーに接続して録音します。

1 外部マイクロホンをリニアPCMレコーダーのMIC（マイクロホン）ジャックに接続します。

マイクロホンの設置位置を調節します。マイクロホンの特性については、マイクロホンに付属の取扱説明書をご覧ください。



停止中に外部マイクロホンをリニアPCMレコーダーのMICジャックに接続すると「プラグインパワー」設定画面が表示されます。プラグインパワー対応のマイクロホンをご使用の場合は「オン」を選びます。

「オフ」を選んだ場合は、プラグインパワー機能は働きません。

2 「内蔵マイクロホンを使って録音する」（40 ページ）の手順2から8を行い、録音を始めます。

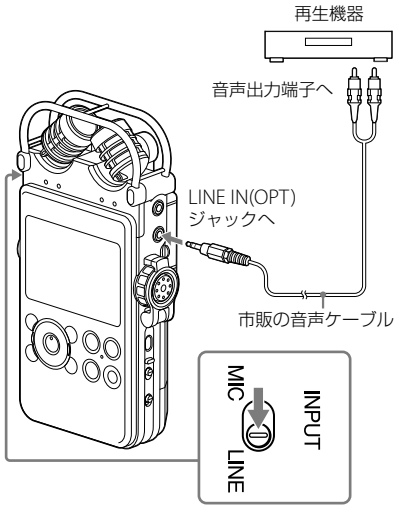
Information

- MICジャックに外部マイクロホンを接続しているときは、内蔵マイクロホンでの録音はできません。
- メニューの「プラグインパワー」が「オン」に設定されていると、リニアPCMレコーダーからプラグインパワー対応マイクロホンに電源を供給します。

外部機器から録音する（ライン入力）

CDプレーヤー、MDプレーヤー、DATプレーヤーなどの外部機器で再生した音源を録音します。

1 外部機器の音声出力端子とリニアPCMレコーダーのLINE IN（OPT）ジャックを、市販の音声ケーブルを使って接続します。



2 INPUTスイッチを「LINE」の位置に合わせます。

3 「内蔵マイクロホンを使って録音する」（40 ページ）の手順3から7を行います。

4 外部機器の再生を始めます。

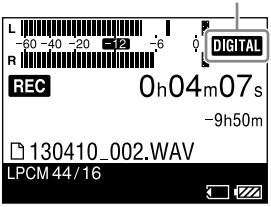
5 録音を開始したいところで、❚❚PAUSEボタン（または ►ボタン）を押します。

録音スタンバイ状態が解除され、録音が始まります。

デジタル録音

CDプレーヤーやMDプレーヤー、DATプレーヤーなどのデジタル機器からのデジタル信号を録音する場合です。

デジタル信号が入力されたとき



リニアPCMレコーダーが対応するデジタル録音

リニアPCMレコーダーのLINE IN (OPT)ジャックにCD ／ MD ／ DATプレーヤーなどのデジタル機器が接続された場合、以下のデジタル信号に対応します。対応していない信号の入力があったときは「対応していないデジタル信号」が表示されます。

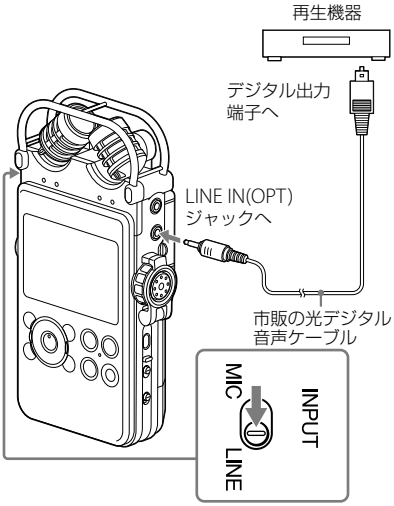
- リニアPCM 44.1 ／ 48 ／ 88.2 ／ 96 ／ 176.4 ／ 192 kHzデジタル信号
- 著作権付きのデジタル入力(SCMS)は録音できません。「コピーできないデジタル信号」と表示されます。ご使用の機器によっては、著作権付きのデジタル信号を出力する場合があります。例えば、著作権付きで録音したMDやDATなどのメディアは、著作権付きのデジタル信号を出力するため、リニアPCMレコーダーでは録音できません。
- サンプルワード長が16ビット以下または不定な場合は16ビットで、それ以外は24ビットで録音します。

Information

- デジタル入力録音時には、リニアPCMレコーダーの機能のうち、次の機能は使えません。
  録音レベルの設定／ MIC ATTスイッチ／リミッター設定／録音モードの設定／ LCF設定／ SBM設定／プリレコーディング／ S/N 100dB
- 録音可能時間が残り10秒に満たない場合、デジタル録音はできない場合があります。

外部機器からデジタル信号を録音する

1 外部機器のデジタル出力端子とリニアPCMレコーダーのLINE IN（OPT）ジャックを市販の光デジタル音声ケーブルを使って接続します。



2 INPUTスイッチを「LINE」の位置に合わせます。

3 停止中に、HOME ／ BACKボタンを1秒以上押して、ホームメニューを表示し、「各種設定」→「録音設定」→「デジタルシンクロ録音」を選び、►ボタンを押します。

「デジタルシンクロ録音」画面が表示されます。

4 ▲または▼で「オフ」を選び、►ボタンを押します。

5 「内蔵マイクロホンを使って録音する」（40 ページ）の手順3から6を行います。

6 外部機器の再生を始めます。

7 録音を開始したいところで、❚❚PAUSE（または ►ボタン）を押します。

録音スタンバイ状態が解除され、録音が始まります。

Information

- 外部機器のファイル情報によって自動的に録音を開始するには「再生に同期して録音を開始する（デジタルシンクロ録音）」（48 ページ）をご覧ください。

再生に同期して録音を開始する（デジタルシンクロ録音）

一部のCD ／ MD ／ DATポータブルデジタル機器（再生していないときにデジタル信号が出力されない機器）では、機器からの信号によって、自動的に録音を開始することができます（デジタルシンクロ録音）。

1 外部デジタル機器のデジタル出力端子とリニアPCMレコーダーのLINE IN（OPT）ジャックを、市販の光デジタル音声ケーブルを使って接続します。

2 INPUTスイッチを「LINE」の位置に合わせます。

3 停止中に、HOME ／ BACKボタンを1秒以上押して、ホームメニューを表示し、「各種設定」→「録音設定」→「デジタルシンクロ録音」を選び、►ボタンを押します。

「デジタルシンクロ録音」画面が表示されます。

4 ▲または▼で「オン」を選び、►ボタンを押します。

5 「内蔵マイクロホンを使って録音する」（40 ページ）の手順3から6を行い、録音の準備をします。

6 外部機器の再生を始めます。

外部機器からのファイル情報により、自動的に録音を開始します。再生側の信号のファイルが切り換わると、自動的に新しいファイルとして録音されます。

Information

- 異なったデジタル入力信号の場合は、同じファイルに録音できないため、新しいファイルとして録音されます。
- デジタル録音時、まれにカウンターが実際の録音よりも1秒程遅れて表示される場合があります。
- CD ／ MD ／ DATプレーヤーからデジタル録音した場合、ソースデータの種類またはご使用方法によっては、正しくシンクロ録音ができない場合があります。
- すべてのCD ／ MD ／ DATプレーヤーでの動作を保証するものではありません。ご使用の外部機器によっては正常に動作しない場合があります。
- 録音可能時間が残り10秒に満たない場合は、デジタルシンクロ録音はできない場合があります。

メモリーを切り換えて録音を続ける（クロスメモリー録音）

内蔵メモリーまたはメモリーカードの残量が録音途中でなくなった場合でも、自動的にもう一方のメモリーに切り換えて録音を続けることができます（クロスメモリー機能）。

1 **停止中に、HOME ／ BACKボタンを1秒以上押して、ホームメニューを表示し、「各種設定」→「録音設定」→「クロスメモリー録音」を選び、►ボタンを押します。**

「クロスメモリー録音」画面が表示されます。

2 **▲または▼で「オン」を選び、►ボタンを押します。**

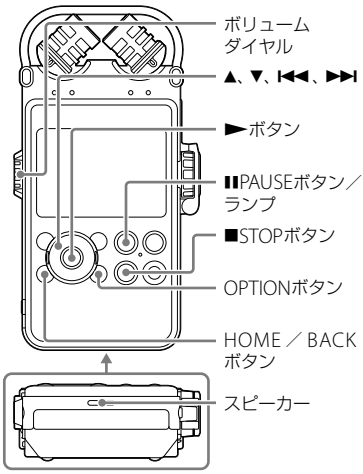
3 **録音を開始します。**

録音中にメモリーがいっぱいになると、表示窓に「メモリーを切り換えて録音を継続します」と表示され、もう一方のメモリーの録音可能な番号の若いフォルダに、新しいファイルとして続いて録音されます。

ご注意

- 切り換え先のメモリーもいっぱいで録音できないときは、メッセージが表示され、録音が停止します。
- クロスメモリー録音で録音されたファイルを再生しても、自動的に移動先のファイルは続けて再生されません。
- 録音中にリニアPCMレコーダーにメモリーカードを挿入しても、クロスメモリー録音は行われません。
- 再生中はクロスメモリーの設定はできません。停止中に設定してください。
- クロスメモリー録音で録音した場合、メモリー切り換え後の音声の一部が音切れする場合があります。

ファイルを再生する



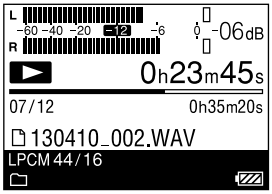
録音したファイルやパソコンから転送したミュージックファイルは、リニアPCMレコーダーの内蔵スピーカーで再生できます。

1 ホームメニューから再生したいファイルを選びます(31 ページ)。

2 ►ボタンを押します。

再生が始まります。

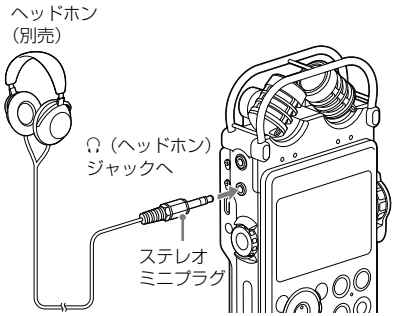
表示窓に►が点灯します。フォルダ内の最後のファイルまで、ファイルの番号順に再生します。



3 ボリュームダイヤルで音量を調節します。

ヘッドホンで聞くには

別売のヘッドホンまたはイヤホンをリニアPCMレコーダーの🎧(ヘッドホン)ジャックに接続します。



再生中のいろいろな操作

目的	操作
再生を停止する	■STOPボタンを押します。
再生を一時停止する	❚❚ PAUSEボタンを押します。表示窓に ▶II とカウンター表示が点滅します。もう1度押すと、再び再生が始まります。
早送り再生する（キュー）	▶▶Iを押したままにします。*
早戻し再生する(レビュー)	I◀◀を押したままにします。*
再生中のファイルを頭出しする	I◀◀を短く1回押します。
再生中の前のファイルを頭出しする	I◀◀を短く繰り返し押します。**
再生中の次のファイルを頭出しする	▶▶Iを短く1回押します。**
さらに次のファイルを頭出しする	▶▶Iを短く繰り返し押します。

* ボタンを押し続けると、最初は少しずつ早送り、早戻しされます。しばらくそのままにすると段階的に高速で早送り、早戻しされます。

** オプションメニューで「イージーサーチ」が「オフ」に設定されている場合の動作です。

ファイル情報を表示する

再生、または再生停止中にOPTIONボタンを押してオプションメニューから「ファイル情報」を選ぶと、現在選択されているファイルの作成日時、ファイルサイズ、タイトル、アーティスト情報、録音モード、LCF ／リミッター設定などの様々な情報を表示することができます。画面は▲または▼でスクロールすることが可能です。

最後のファイルの終わりまで再生または早送りすると

- フォルダの最後のファイルの終わりまで来ると、「FILE END」表示が5秒点灯します。「FILE END」が消えると、フォルダの最後のファイルの頭に戻って止まります。
- 「FILE END」の点灯中にI◀◀を押したままにすると、早戻しされ、離したところから再生が始まります。
- 最後のファイルが長時間のファイルの場合で、ファイル中の後ろの方を探して再生したい場合は、▶▶Iを押し続けていったんファイルの最後まで早送りして、「FILE END」表示の点灯中にI◀◀を押して聞きたいところまで早戻しして探すと便利です。
- 最後のファイル以外の場合は、次のファイルの頭に送ってから再生中に早戻しすると素早く探せます。

Information

- 再生中は、電池やACアダプターを外さないでください。LINE OUT（OPT）ジャックや🎧（ヘッドホン）ジャックから出力される音声に、ノイズが出る場合があります。
- すばやく録音へ移動するには、●RECボタンを押すか、オプションメニューから「録音画面へ」を選択します。

ご注意

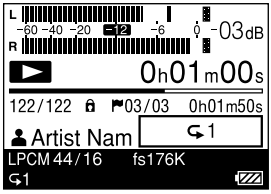
音量を上げすぎないようにご注意ください。リニアPCMレコーダーは、ヘッドホンの出力が大きい為、一般の機器に比べて音量が大きめに設定されていますので、適切な音量に調節してお聞きください。

次のページへ続く…▶

ファイルを繰り返し再生する(1件リピート)

再生中に►ボタンを1秒以上押します。

画面に1件リピートマーク(🔁1)が表示され、ファイルが繰り返し再生されます。



リピート再生を中止するには

通常の再生に戻すには、►ボタンを押します。

再生モードを変更するには

再生、または再生停止中にOPTIONボタンを押してオプションメニューを表示し、「再生モード」を選び、►ボタンを押します。

用途に応じた再生モードを選ぶことができます。

詳しくは「再生モード」(79 ページ)をご覧ください。

必要な部分だけを再生する(A-Bリピート)

1 再生、または再生停止中に、OPTIONボタンを押してオプションメニューを表示し、「A-Bリピートモード開始」を選び、►ボタンを押します。

「A-Bリピート開始点設定」が表示されます。

2 リピート再生の開始点(A点)に指定したい箇所で▼を押します。

「A-Bリピート終了点設定」が表示されます。

3 リピート再生の終了点(B点)に指定したい箇所で▼を押します。

A-B間がリピート再生されます。

A-B点を再設定したい場合は、再度▼を押して、手順2と3を繰り返します。

A-Bリピート再生を終了するには

OPTIONボタンを押してオプションメニューを表示し、「A-Bリピートモード終了」を選び、►ボタンを押します。

聞きたいところをすばやく探す（イージーサーチ機能）

イージーサーチ機能を使うと、再生を開始したい場所をすばやく見つけることができます。また、早送り／早戻しの間隔を設定することで、会議録音など長時間録音したものでも、聞きたいところをすばやく探すことができます。

1 再生、または再生停止中に、OPTIONボタンを押してオプションメニューを表示し、「イージーサーチ」を選び、►ボタンを押します。

2 ▲または▼で「オン」を選び、►ボタンを押します。間隔を設定したいときは「間隔設定」を選び、►ボタンを押します。
「オン」を選んだときは、設定画面が終了します。
「間隔設定」を選んだときは、次の手順に進んでください。

3 「間隔設定」を選んだときは、▲または▼で「イージーサーチ送り」または「イージーサーチ戻し」を選び、►ボタンを押します。

4 ▲または▼で早送り、早戻しの間隔を選び、►ボタンを押します。

5 他の間隔も選ぶ場合は、►ボタンを押して手順3から4を繰り返します。

6 ▲または▼で「オン」を選び、►ボタンを押します。

イージーサーチ機能を「オン」にすると

I◄◄または►►Iボタンを短押しすると、再生位置が、設定した間隔、前後にすばやく移動します。

再生音質を選ぶ

音質を切り換える(エフェクト)

再生する音楽に合わせた効果を設定します。

1 ホームメニューから再生したいファイルを選びます(31 ページ)。

2 再生または再生停止中に、OPTIONボタンを押してオプションメニューを表示し、「エフェクト」を選び、►ボタンを押します。

3 ▲または▼で音質を選び、►ボタンを押します。

オフ*	エフェクト機能を無効にします。
ポップス ♯♯P	中域を強調したヴォーカルなどに適した音質になります。
ロック ♯♯R	低域と高域を最も強調した迫力のある音質になります。
ジャズ ♯♯J	高域を強調した張りのある音質になります。
ベース1 ♯♯BA1	低音が強調されます。
ベース2 ♯♯BA2	低音が更に強調されます。
カスタム ♯♯C	5バンドおよびクリアベースのサウンドレベルを自由に設定できます。

* お買い上げ時は「オフ」に設定されています。

自分好みの音質に設定するには

手順3で「カスタム」を選び、カスタム設定画面を表示します。I◄◄または►►Iで400 Hz、1.0 kHz、2.5 kHz、6.3 kHzまたは16 kHzの周波数帯のレベルを選び、▲または▼でレベルを調節します。
−3 〜+3の7段階に設定できます。クリアベースを調節する場合は、「CLEAR BASS」を選び、0 〜 +3の4段階で調節します。
►ボタンを押すと設定が有効になります。

音程を調節する(キーコントロール)

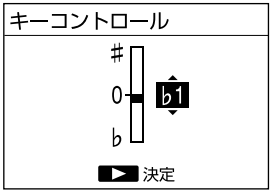
再生音の音程は、半音ずつ上下に13段階に調節して、再生することができます。伴奏に合わせて歌を練習するときなどに便利です。

1 ホームメニューから再生したいファイルを選びます(31 ページ)。

2 再生、または再生停止中に、OPTIONボタンを押してオプションメニューを表示し、「キーコントロール」を選び、►ボタンを押します。

3 ▲または▼で音程を選び、►ボタンを押します。

#1 〜 #6 (#1刻み)、0*、♭1 〜♭6 (♭1刻み)の13段階で調節できます。



* お買い上げ時は「0」に設定されています。

再生速度を調節する(DPC)

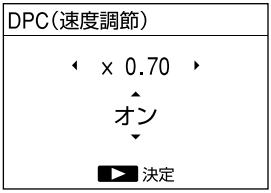
再生速度を0.25倍速から2.00倍速の間で調節できます。その際、音程はデジタル処理により、自然に近いレベルで再生します。

1 ホームメニューから再生したいファイルを選びます(31 ページ)。

2 再生、または再生停止中に、OPTIONボタンを押してオプションメニューを表示し、「DPC(速度調節)」を選び、►ボタンを押します。

3 ▲または▼で「オン」を選び、I◄◄ または ►►I で速度を選びます。

0.05倍速刻みで遅くする(×0.25 ～ ×1.00)
0.10倍速刻みで速くする(×1.00 ～ ×2.00)
ボタンを1秒以上押すと連続して設定できます。



お買い上げ時は「オフ」に設定されています。

4 ►ボタンを押します。

再生音質を調節する(アップサンプリング)

音源のサンプリング周波数を2倍または4倍に擬似的に補間することにより、再生音質を高めることができます。

PCMファイルを選んでいるときにだけ設定することができます。

元のサンプリング周波数と補間後のサンプリング周波数は次のとおりです。

元の周波数	×2.0	×4.0
44.1 kHz	88.2 kHz	176.4 kHz
48 kHz	96 kHz	192 kHz
88.2 kHz	176.4 kHz	176.4 kHz
96 kHz	192 kHz	192 kHz
176.4 kHz／192 kHz	–	–

–：元の周波数が、192kHzと176.4kHzの場合は、アップサンプリングは実行されません。

1 ホームメニューから再生したいファイルを選びます(31 ページ)。

2 再生停止中に、HOME ／ BACKボタンを押してHOMEメニューを表示し、「各種設定」→「再生設定」→「アップサンプリング」を選び、►ボタンを押します。

3 ▲または▼で「×2.0」または「×4.0」を選び、►ボタンを押します。

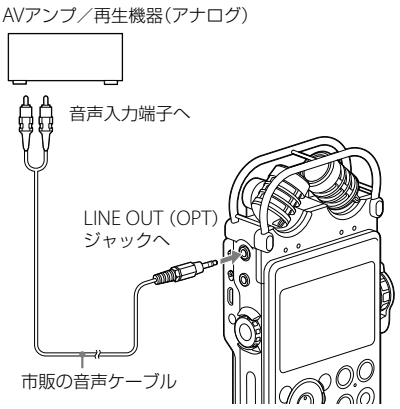
ご注意

- アップサンプリングを有効に設定すると、「DPC (速度調節)」と「キーコントロール」「エフェクト」設定は無効になります。
- お買い上げ時は「オフ」に設定されています。

外部機器に接続して再生する

録音したファイルを外部機器のスピーカーから出力して聞くには、外部機器の音声入力端子またはデジタル入力端子とリニアPCMレコーダーのLINE OUT (OPT)ジャックを市販の音声ケーブルまたは光デジタル音声ケーブルを使って接続します。

アナログ機器に接続する場合

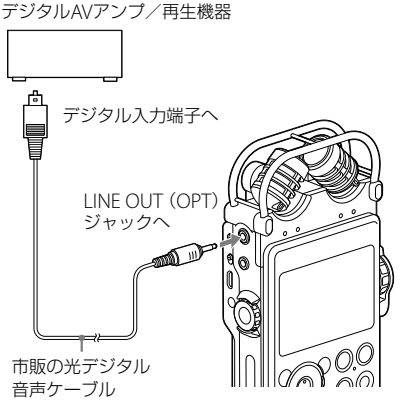


1 ホームメニューから再生したいファイルを選びます(31 ページ)。

2 ►ボタンを押します。

再生が開始します。

デジタル機器に接続する場合



1 ホームメニューから再生したいファイルを選びます(31 ページ)。

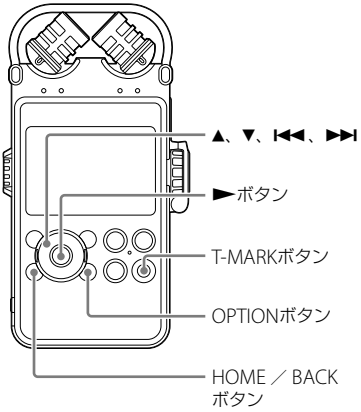
2 ►ボタンを押します。

再生が開始します。

ご注意

リニアPCMレコーダーで出力できるデジタル信号は、リニアPCM 44.1 ／ 48.0 ／ 88.2 ／ 96.0 ／ 176.4 ／ 192.0 kHz、16/24 bitのみです。接続機器や環境によっては動作しないことがあります。

フォルダ内のファイルを整理する



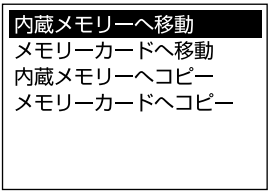
ファイルを別のフォルダに移動する

選んだファイルをお好みのフォルダに移動できます。

1 ホームメニューから移動させたいファイルを選びます(31 ページ)。

2 再生、または再生停止中にOPTIONボタンを押してオプションメニューを表示し、「ファイル移動／コピー」を選び、►ボタンを押します。

3 ▲または▼で「内蔵メモリーへ移動」または「メモリーカードへ移動」を選び、►ボタンを押します。



4 ▲または▼で、移動先を「録音したファイル」または「♫ミュージック」から選び、►ボタンを押します。

5 ▲または▼で、移動先のフォルダを選び、►ボタンを押します。

移動先フォルダの最後に移動します。

移動を中止するには

表示窓に「しばらくお待ちください」が表示されているときに、HOME ／ BACKボタンを押します。「処理を中止しますか?」と表示されたら、I◀◀または▶▶Iで「はい」を選び、►ボタンを押します。

ご注意

- 保護されたファイルは移動できません。保護設定を解除してから移動してください。

次のページへ続く…▶

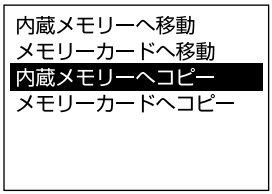
ファイルを別のフォルダにコピーする

選んだファイルをお好みのフォルダにコピーします。バックアップをとる場合などに便利です。

1 ホームメニューからコピーしたいファイルを選びます（31 ページ）。

2 再生、または再生停止中にOPTIONボタンを押してオプションメニューを表示し、「ファイル移動／コピー」を選び、►ボタンを押します。

3 ▲または▼で「内蔵メモリーへコピー」または「メモリーカードへコピー」を選び、►ボタンを押します。



4 ▲または▼で、コピー先を「録音したファイル」または「♫ミュージック」から選び、►ボタンを押します。

5 ▲または▼で、コピー先のフォルダを選び、►ボタンを押します。
コピー先フォルダの最後にコピーされます。

コピーを中止するには

表示窓に「しばらくお待ちください」が表示されているときに、HOME ／ BACKボタンを押します。「処理を中止しますか?」と表示されたら、⏮または⏭で「はい」を選び、►ボタンを押します。

ファイルを並べ換えるには

現在選択しているフォルダ内のファイルをUNICODE順に並べ換える（ソートする）ことができます。ファイルを移動、コピーした後などに、フォルダ内を整理したいときに便利です。

1 ファイル一覧画面でOPTIONボタンを押して、オプションメニューを表示し、「ファイル名ソート」を選び、►ボタンを押します。
フォルダ内のファイルがUNICODE順にソートされます。

トラックマークを使う

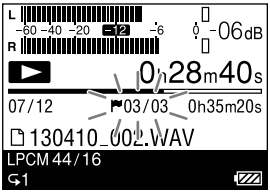
トラックマークを付ける

再生時の頭出しや、分割位置の目安として利用するために、トラックマークを付けることができます。1つのファイルに98個まで設定できます。

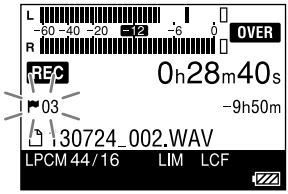
録音中、録音一時停止中、再生中、トラックマークを付けたい場所でT-MARKボタンを押します。

⚑(トラックマーク)表示が3回点滅し、トラックマークが設定されます。

再生時



録音時



トラックマークを付けた位置を探して聞くには

停止中に⏮または⏭を押します。⚑(トラックマーク)表示が1回点滅したら、▶ボタンを押します。

Information

- 保護されているファイルには、トラックマークが付けられません。保護設定を解除してから操作してください。
- 音楽ファイルには、トラックマークが付けられません。
- デジタルシンクロ録音中はトラックマークが付けられません。
- DSDファイルにはトラックマークが付けられません。

次のページへ続く…▶

トラックマークを消去する

現在位置のトラックマークを消去します。

1 ホームメニューからトラックマークを消去したいファイルを選びます（31ページ）。

2 消去したいトラックマーク位置の後で停止します。

3 OPTIONボタンを押してオプションメニューを表示し、「トラックマーク消去」→「現在のトラックマーク」を選び、►ボタンを押します。

4 「トラックマークを消去しますか？」と表示されたら、I◄◄または►►Iで「はい」を選び、►ボタンを押します。
設定したトラックマークが消去されます。

途中で消去をやめるには

手順4で「いいえ」を選び、►ボタンを押します。

すべてのトラックマークを消去するには

手順3でOPTIONボタンを押してオプションメニューを表示し、「トラックマーク消去」→「全てのトラックマーク」を選び、►ボタンを押します。「トラックマークを全て消去しますか？」と表示されたら、I◄◄または►►Iで「はい」を選び、►ボタンを押します。選択したファイルのすべてのトラックマークが消去されます。

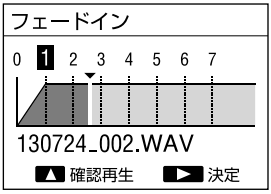
フェードイン／フェードアウトを設定する

LPCM（.wav）で録音したファイルにフェードイン、フェードアウトの効果をつけることができます。フェードイン、フェードアウトそれぞれに効果をつける時間を設定できます。

1 ホームメニューから、フェードイン、フェードアウトを設定したいLPCM（.wav）形式で録音したファイルを選択します（31 ページ）。

2 再生、または再生停止中にOPTIONボタンを押してオプションメニューを表示し、「フェード」→「フェードイン」、「フェードアウト」または「フェードイン・アウト」を選び、►ボタンを押します。

3 I◄◄ または ►►I で、フェードインまたはフェードアウトの長さを1秒間隔で最大7秒間まで設定し、►ボタンを押します。



フェードイン・アウト効果を再生して確認するには、▲を押します。
►ボタンを押すと、確認画面が表示されます。
手順2で「フェードイン・アウト」を選んだ場合は、フェードインの長さを設定した後、続けてフェードアウトの長さを設定します。

4 「実行しますか?」と表示されたら、I◄◄ または ►►I を押して「はい」を選び、►ボタンを押します。
フェード効果を設定したファイルが新しいファイルとして保存されます。

フェードイン／フェードアウト効果を中止するには

- 表示窓に「しばらくお待ちください」が表示されているときに、HOME ／ BACKボタンを押します。「処理を中止しますか?」と表示されたら、I◄◄ または ►►I で「はい」を選び、►ボタンを押します。
- 手順4で「いいえ」を選び、►ボタンを押します。

Information

ご注意
- 以下の場合は、フェードイン、フェードアウト設定ができません。
  – LPCM（.wav）で録音した以外のファイル
  – 20秒未満の長さのファイル
  – 音楽ファイル
- ファイルサイズによっては、フェードイン、フェードアウトの実行に5分以上かかる場合があります。

ヒント
- 編集後のファイル名には「_n」が付きます（nは初期値を「1」として1 ～ 9で重複しない数字）。

ファイルを分割する

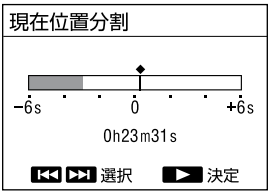
現在位置で分割する

停止中にファイルを2つのファイルに分割することができます。1つのファイルが長時間になったときなどに、複数のファイルに分割しておくと、再生したい場所がすばやく探せて便利です。

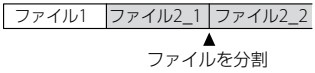
1 ホームメニューから録音したファイルを選び(31 ページ)、分割したい位置で停止します。

2 OPTIONボタンを押してオプションメニューを表示し、「分割」→「現在位置」を選び、►ボタンを押します。
分割位置から約4秒間の繰り返し再生が始まります。

3 I◄◄または►►Iで希望する分割位置を微調し、►ボタンを押します。
現在位置の前後約6秒間で約0.25秒単位での微調節が可能です。



4 「分割しますか?」と表示されたら、I◄◄または►►Iで「はい」を選び、►ボタンを押します。
ファイルが分割されます。分割されたファイルは、新しいファイル名がつきます。



すべてのトラックマーク位置で分割する

トラックマークのある位置でファイルを分割できます。

1 ホームメニューから録音したファイルを選びます。

2 OPTIONボタンを押してオプションメニューを表示し、「分割」→「全てのトラックマーク位置」を選び、►ボタンを押します。

3 「全てのトラックマーク位置で分割しますか?」と表示されたら、I◄◄または►►Iで「はい」を選び、►ボタンを押します。
すべてのトラックマークが消去され、トラックマークの位置でファイルが分割されます。

分割を中止するには

表示窓に「しばらくお待ちください」が表示されているときに、HOME ／ BACKボタンを押します。「処理を中止しますか?」と表示されたら、I◄◄または►►Iで「はい」を選び、►ボタンを押します。

Information

- 分割したファイルには、以下のようにファイル名が付きます。
  - 現在位置分割時：ファイル名の末尾に「_n」が付きます（nは1 ～ 9で重複しない数字）。
  - すべてのトラックマーク位置分割時：ファイル名の末尾にそれぞれ「_nn」が付きます（nnは01 ～ 99で重複しない数字）。
- 以下の場合、分割操作はできません。
  - リニアPCMレコーダーで録音したファイル以外のファイル
  - ファイルが保護設定されている場合
  - ファイルの開始／終了箇所から0.5秒未満の位置で操作する場合
  - フォルダ内の最大ファイル数に達した場合（表示窓に「ファイルが一杯です」と表示されます。
  - 新しいファイル名が最大文字数を超える場合
  - 分割後のファイル名と同じ名前のファイルが同じフォルダにある場合
  - ファイルの前後0.5秒未満の位置にトラックマークが設定されているとき（「全てのトラックマーク位置」を選んで分割時のみ）
- 「現在位置」での分割実行時、ファイルの前後0.5秒未満の位置にトラックマークが設定されているときは、トラックマークを消去してファイルを分割します。

ファイルを結合する

LPCM（.wav）またはDSD（.dsf）で録音した2つのファイルをひとつのファイルに結合することができます。同じフォルダに保存されている同じファイル形式（サンプリング周波数、ビットレート、チャンネル数など）のファイルを選んでください。

1 **ホームメニューから、結合したい録音したLPCMまたはDSDファイルを選択します（31 ページ）。**

結合するときに前にしたいファイルを選びます。

2 **再生、または再生停止中にOPTIONボタンを押してオプションメニューを表示し、「結合」を選び、►ボタンを押します。**

手順1で選んだファイルの後に結合することのできるファイルが一覧表示されます。

3 **▲または▼で後ろに結合したいファイルを選び、►ボタンを押します。**

DSDファイルを選んだときは、手順4に、LPCMファイルを選んだときは、手順5へ進んでください。

4 **▲または▼で「クロスフェード結合」または「ダイレクト結合」を選び、►ボタンを押します。**

- ダイレクト結合：本来連続して録音された音声で、自動分割されたファイルを結合する場合にだけ選択してください。
- クロスフェード結合：上記以外の連続していない音声、独立した2つのファイルを結合するときに選択してください。

5 **「実行しますか？」と表示されたら、I◄◄または►►Iで「はい」を選び、►ボタンを押します。**

ファイルが結合され、新しいファイルが作成されます。新しいファイル名には「_n」が付きます（nは初期値を「1」として1 ～ 9で重複しない数字）。

結合を中止するには

表示窓に「しばらくお待ちください」が表示されているときに、HOME ／ BACKボタンを押します。「処理を中止しますか?」と表示されたら、I◄◄または►►Iで「はい」を選び、►ボタンを押します。

Information

- 結合後のLPCM ／ DSDファイルがファイルサイズの上限（2 GB）を超える場合は、結合はできません。
- 保護されているファイルも結合できます。
- 結合後のファイル数が最大ファイル数を超える場合は、結合はできません。
- MP3ファイルは結合できません。
- DSDファイルを結合した場合、結合部分にノイズが入る場合があります。

ファイルを消去する

1ファイルを選んで消去する

1 ホームメニューから消去したいファイルを選びます(31 ページ)。

2 再生、または再生停止中にOPTIONボタンを押してオプションメニューを表示し、「1ファイル消去」を選び、►ボタンを押します。

「消去しますか？」と表示され、確認のため、選んだファイルが再生されます。

3 I◄◄ または ►►I で「はい」を選び、►ボタンを押します。

ファイルが消去されます。

途中で消去をやめるには

手順3で「いいえ」を選び、►ボタンを押します。

フォルダの中身を一度に消去する

1 消去したいファイルを含むフォルダまたは日付のファイルリストを表示します。

操作方法については、「フォルダリストからファイルを選ぶ」(31 ページ)の手順1 ～ 3、または「カレンダーの日付からファイルを選ぶ」(32 ページ)の手順1 ～ 6をご覧ください。

2 OPTIONボタンを押してオプションメニューを表示し、「フォルダ内全消去」または「日付内全消去」を選び、►ボタンを押します。

「フォルダ内のファイルを全て消去しますか？」または「日付内のファイルを全て消去しますか？」と表示されます。

3 I◄◄ または ►►I で「はい」を選び、►ボタンを押します。

フォルダ内または日付内の全ファイルが消去されます。

Information

ご注意

- 一度消去したファイルはもとに戻すことはできません。
- 保護設定されているファイルは、消去できません。保護設定を解除してから操作してください。

ヒント

- 1ファイルを消すと、次のファイルが自動的に繰り上がるので、間に空白部分は残りません。
- ひとつのファイルの一部分だけ消去するには、ファイル分割(62 ページ)で消去する部分としない部分に分け、消去したい部分のファイル番号を選んで「1ファイルを選んでファイルを消去する」の手順2から手順3の操作をします。

ファイルを保護する

大事なファイルを間違って消去、編集することがないように保護できます。保護されたファイルには、🔒(保護)マークが表示され、消去、編集ができない読み取り専用ファイルになります。

1 ホームメニューから保護したいファイルを選びます(31 ページ)。

2 再生、または再生停止中にOPTIONボタンを押してオプションメニューを表示し、「保護」を選び、►ボタンを押します。

ファイルが保護されます。

保護を解除するには

手順2で保護されたファイルを選び、OPTIONボタンを押してオプションメニューを表示し、「保護解除」を選び、►ボタンを押します。

ファンクションキー（F1 ／ F2)に機能を登録する

良くお使いになる機能をF1またはF2ファンクションキーに登録することにより、キーを押すだけで登録した機能設定画面をすぐに表示することができます。

1 **HOME ／ BACKボタンを1秒以上押して、ホームメニューを表示し、「各種設定」→「共通設定」→「ファンクションキー設定」を選び、►ボタンを押します。**

「ファンクションキー設定」画面が表示されます。

2 **▲または▼を押して、「F1」または「F2」を選び、►ボタンを押します。**

選択したファンクションキーに登録可能な機能の一覧リストが表示されます。

3 **▲または▼を押して、登録したい機能を選び、►ボタンを押します。**

選択した機能がファンクションキーに登録されます。

元に戻るにはHOME ／ BACKボタンを押します。

ヒント

お買い上げ時には以下の機能が割り当てられています。

F1：リミッター

F2：LCF(Low Cut)

パソコンにつないで使う

リニアPCMレコーダーとパソコンを接続すると、ファイルのやり取りが行えます。

ファイルをリニアPCMレコーダーからパソコンにコピーして保存する

音楽ファイルをパソコンからリニアPCMレコーダーにコピーして再生する

USBメモリーとして利用する
パソコンに保存されている画像やテキストファイルなどを一時的に保存できます。詳しい説明についてはヘルプガイドをご覧ください。

音楽CDを作成する
録音したファイルを使って音楽CDを作成できます。(「Sound Forge Audio Studio LEを使う」(別冊))

Sound Forge Audio Studio LEでファイルを管理・編集する
付属のソフトウェアSound Forge Audio Studio LEを使って、リニアPCMレコーダーで録音したファイルをパソコンに取り込んで管理・編集したり、パソコンに保存されている音楽ファイルをリニアPCMレコーダーに転送したりできます。(「Sound Forge Audio Studio LEを使う」(別冊))

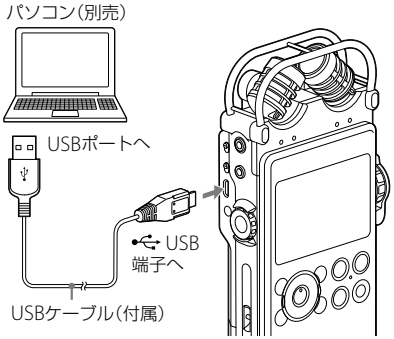
パソコンに必要なシステム構成
パソコンに必要なシステム構成については、93 ページ、または「Sound Forge Audio Studio LEを使う」(別冊)をご覧ください。

ご注意
Sound Forge Audio Studio LEではDSDフォーマットのファイルを扱うことはできません。

リニアPCMレコーダーをパソコンに接続する

リニアPCMレコーダーとパソコンでファイルをやり取りするためには、リニアPCMレコーダーをパソコンに接続します。

1 **付属のUSBケーブルを使い、リニアPCMレコーダーのUSB端子と起動しているパソコンのUSBポートを接続します。**



2 **正しく認識されているかを確認します。**

Windowsでは、[コンピューター]または[PC]を開き、「PCMRECORDER」または「MEMORY CARD」が新しく認識されているかを確認してください。

Macでは、Finderに「PCMRECORDER」または「MEMORY CARD」という名前のドライブが表示されているかを確認してください。

接続するとパソコン側でリニアPCMレコーダーを認識することができ、ファイルのやり取りが行えます。

接続している間はリニアPCMレコーダーの表示窓に「接続中」の表示が出ています。

フォルダとファイルの構成

リニアPCMレコーダーをパソコンに接続すると、フォルダやファイルの構成をパソコンの画面で見ることができます。WindowsではExplorerを使って、MacではFinderを使って、「PCMRECORDER」または「MEMORY CARD」を開くと、フォルダやファイルを表示できます。リニアPCMレコーダーの内蔵メモリー、メモリーカードいずれの場合も、最初にVOICEフォルダとMUSICフォルダ（構成図で灰色表示されたフォルダ）が作成されます。

ファイルをパソコンからリニアPCMレコーダーに転送する

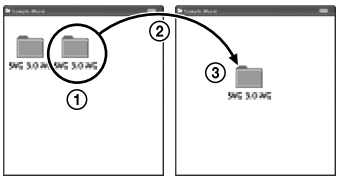
パソコンにあるファイルやフォルダをリニアPCMレコーダーのMUSIC（またはVOICE）フォルダにドラッグアンドドロップして転送します。VOICEフォルダは、リニアPCMレコーダーで録音したファイルを保存するフォルダのため、パソコンから転送する音楽ファイルはMUSICフォルダにコピーすることをお勧めします。

ヒント

リニアPCMレコーダーで探しやすいようにパソコンのファイルはフォルダに入れて、フォルダ単位でMUSICフォルダに転送されることをお勧めします。ファイルをMUSICフォルダのすぐ下に転送した場合は、「♫ミュージック」内に表示されます。

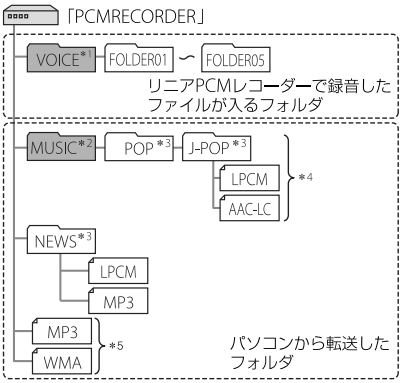
ファイルやフォルダをリニアPCMレコーダーからパソコンに転送する

リニアPCMレコーダーのファイルやフォルダをドラッグして、パソコンのフォルダにドロップします。



内蔵メモリーの場合

パソコンの画面で見ると、内蔵メモリーは次の図のように表示されます。



*1 VOICEフォルダには5つのフォルダ（FOLDER01 ～ FOLDER05）が作成されます。VOICEフォルダの下のフォルダやファイルは、リニアPCMレコーダーのホームメニューで「録音したファイル」を選ぶと表示されます。

*2 音楽ファイルの入ったフォルダを、パソコンからMUSICフォルダに転送できます。転送されたフォルダやファイルは、リニアPCMレコーダーのホームメニューで「♫ミュージック」を選ぶと表示されます。

*3 音楽ファイルが保存されたフォルダ名はリニアPCMレコーダーでも同じフォルダ名として表示されます。管理しやすいフォルダ名にしておくと便利です。（図は、フォルダ名称の例です。）

*4 音楽ファイルを認識できるのは、リニアPCMレコーダーに転送したフォルダの8階層目までとなります。

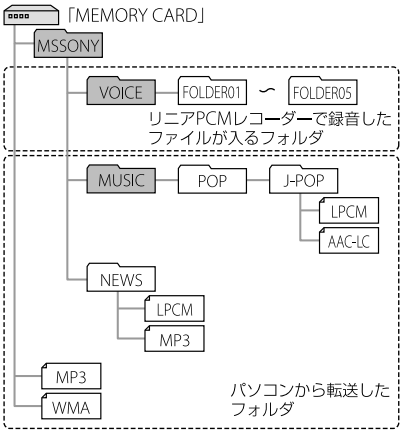
*5 音楽ファイルをルートに転送すると「未分類」のフォルダとして扱われます。

ヒント

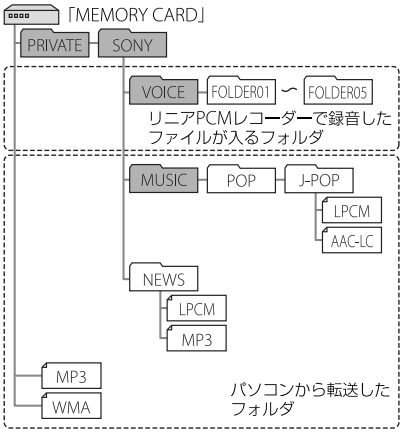
- リニアPCMレコーダーでは、音楽ファイルに登録されているタイトル名やアーティスト名などの情報を表示できますので、音楽ファイルを作成するソフトやパソコンで情報を入力しておくと便利です。
- タイトル名またはアーティスト名が登録されていない場合は、リニアPCMレコーダーでは「No Data」と表示されます。

リニアPCMレコーダーのメモリーを「メモリーカード」に切り換えてから（29 ページ）パソコンに接続した場合、内蔵メモリーの場合とはフォルダの構成が異なります。

メモリースティック™の場合



SDカードの場合



リニアPCMレコーダーで見たフォルダの構成

リニアPCMレコーダーの表示窓で見たフォルダの構成は、パソコンで見た場合とは異なります。

ご注意

- リニアPCMレコーダーで再生できるファイルが入っていないフォルダは、リニアPCMレコーダーでは表示されません。

リニアPCMレコーダーをパソコンから取りはずす

必ず下記の手順で取りはずしてください。この手順で行わないと、データが破損するおそれがあります。

1 リニアPCMレコーダーのACCESSランプが消えていることを確認します。

2 パソコンで下記の操作を行います。

Windowsの場合：
タスクバー（パソコンの画面右下）にあるアイコンをクリックしてください。

→[PCMRECORDERの取り外し]をクリックしてください。
アイコン、メニューの表示はOSの種類によって異なる場合があります。
お使いのパソコンの設定によっては、タスクバーにアイコンが表示されない場合があります。

Macの場合：
Finderのサイドバーに表示されている「PCMRECORDER」の取り外しアイコンをクリックしてください。
パソコンから取りはずす方法について詳しくは、お使いのパソコンの取扱説明書をご覧ください。

3 パソコンのUSBポートからリニアPCMレコーダーを取りはずします。

オプションメニュー項目一覧

ホームメニューで機能を選び、各画面でOPTIONボタンを押した際に表示されるオプションメニューの一覧です。
フォルダ表示時、ファイルリスト表示時、ファイル表示時では表示される項目が異なります。

録音

■停止時

オプションメニュー名	参照ページ
録音先フォルダ	40
録音モード	75
SBM(Super Bit Mapping)	75
ピークホールド	76
リミッター	76
S/N 100dB	77
LCF(Low Cut)	77
プリレコーディング	44
1ファイル消去	65

■録音時

オプションメニュー名	参照ページ
ピークホールド	76
リミッター	76
S/N 100dB	77
LCF(Low Cut)	77

録音したファイル

■フォルダ／カレンダー表示時

オプションメニュー名	参照ページ
リスト表示形式	32

■ファイル一覧表示時

オプションメニュー名	参照ページ
リスト表示形式	32
ファイル名ソート	58
保護	66
1ファイル消去	65
フォルダ内全消去	65
結合	64
フェード	61
ファイル移動／コピー	57、58
ファイル情報	51

■ファイル選択時

オプションメニュー名	参照ページ
録音画面へ	–
A-Bリピートモード開始	52
DPC（速度調節）	55
キーコントロール	54
エフェクト	54
イージーサーチ	53
再生モード	79
保護	66
1ファイル消去	65
トラックマーク消去	60
分割	62
結合	64
フェード	61
ファイル移動／コピー	57、58
ファイル情報	51

次のページへ続く…▶

♫ミュージック

■ファイル一覧表示時

オプションメニュー名	参照ページ
ファイル名ソート	58
保護	66
1ファイル消去	65
フォルダ内全消去	65
ファイル移動／コピー	57、58
ファイル情報	51

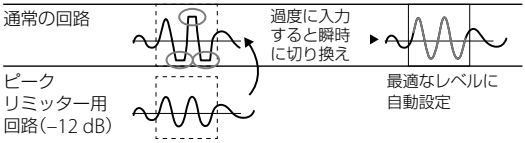
■ファイル選択時

オプションメニュー名	参照ページ
A-Bリピートモード開始	52
DPC（速度調節）	55
キーコントロール	54
エフェクト	54
イージーサーチ	53
再生モード	79
保護	66
1ファイル消去	65
ファイル移動／コピー	57、58
ファイル情報	51

各種設定メニュー項目一覧

メニュー	設定項目	設定内容(*：お買い上げ時の設定)
録音設定	録音先フォルダ	リニアPCMレコーダーで録音したファイルを保存するフォルダを選びます(40 ページ)。 FOLDER01*／ FOLDER02 ／ FOLDER03 ／ FOLDER04 ／ FOLDER05
	録音モード	録音する音声のファイル形式を選択します。 • LPCM サンプリング周波数と量子化ビット数を選択します。 192 kHz ／ 24 bit 176.4 kHz ／ 24 bit 96 kHz ／ 24 bit 96 kHz ／ 16 bit 88.2 kHz ／ 24 bit 88.2 kHz ／ 16 bit 48 kHz ／ 24 bit 48 kHz ／ 16 bit 44.1 kHz ／ 24 bit 44.1 kHz ／ 16 bit* • MP3 320 kbps 128 kbps • DSD 2.8MHz • デュアルレコーディング 1度の録音で、LPCM形式とMP3形式の2種類のファイルを作成することができます。LPCM、MP3の録音モードをそれぞれ選びます。 **Information** • サンプリング周波数とは、アナログ信号からデジタル信号への変換(A/D変換)を1秒間に何回行うかを表す数値です。数値が高いほど音質は向上し、データ量が増えますが、録音可能時間は短くなります。44.1 kHzでCD相当、48 kHzでDAT相当、96 kHzでDVD Audio相当の音質が得られます。 • 量子化ビット数とは、1秒間の音声に与えるデータ容量を表す数値です。数値が高いほど多くのデータ容量が与えられ、音質が向上します。
	SBM(Super Bit Mapping)	LPCM 16bitの録音モード選択時、Super Bit Mapping機能を使って、ノイズを軽減します。 オン： Super Bit Mapping機能が働き、ノイズを軽減します。 オフ*：Super Bit Mapping機能は働きません。 **Information** • Super Bit Mappingとは、人間の可聴帯域内でも特に耳につきやすいノイズを減らすことで、聴覚上のダイナミックレンジを飛躍的に拡大する機能です。20 bitのデータを16 bitに変換するとき、従来は捨て去られる下位データの中の上位4 bit分の情報量を16 bitの中に織り込むことで、音質の向上を実現します。

次のページへ続く…▶

メニュー	設定項目	設定内容(*:お買い上げ時の設定)
録音設定	ピークホールド	入力信号の最大値(ピーク値)を保持するかどうかを設定します。 オート*:　ピーク値は保持されず、その都度リセットされます。 マニュアル:「ピークリセット」を行うまでは、ピーク値を保持します。
	リミッター	リニアPCMレコーダーでは、1チャンネルに2つのADコンバーターを使い、通常の音声とともに12dB低い信号を常に確保しています。過大入力が発生した際には、その時点まで戻って録音データを差し換えます。アナログでは不可能なマイナスのリミッター時定数を実現し、音のひずみを防止します。  ここでは、リカバリーまでの時間を設定します。 オフ*:リミッター機能は無効に設定されます。 150ms:　約150msでデジタルリミッター回路からリカバーします。 1sec:　約1秒でデジタルリミッター回路からリカバーします。 1min:　約1分でデジタルリミッター回路からリカバーします。 **Information** • リミッター回路とは、信号レベルを最大入力レベル以下に調整するための回路です。突然大きな音が入力された場合でも、音の過大な部分を最大入力レベルの範囲内で最適なレベルに自動設定し、ノイズを抑えます。 • リニアPCMレコーダーのリミッター回路は、12 dB以上の音声入力には対応していません。12 dB以上過入力されると、音がひずむことがあります。 • リミッター機能を有効に設定した場合、表示窓の最大ピーク値が0 dBを超えると、リミッターが動作している状態でのピーク値が表示されます。 • 設定時間は通常の録音レベルより12 dB低い音量で録音し続ける時間です。断続的に過大入力が入るような音源を録音する際には、頻繁に録音音量が変化し、違和感を感じることがあります。その際にはリカバリー時間の長い設定をお試しください。

メニュー	設定項目	設定内容(*：お買い上げ時の設定)
録音設定	S/N 100dB	リニアPCMレコーダーでは、1チャンネルに2つのADコンバーターを使い、通常の音声と共に、12dB低い信号を常に確保しています。大きな音が発生した際には、その時点まで戻って録音データを差し換えますが、レベルの異なる2つのADコンバーターをリニアリティを保ったまま差し換えることで、高いS/Nを実現し、小さめの録音レベルで録音していても、ノイズを小さく抑えられます。 オン： S/N 100 dBモードで録音します。 オフ*：S/N 100 dBモードの設定は無効になります。 **Information** • S/N 100dBを有効に設定するとリミッターの設定は無効になります。
	LCF(Low Cut)	ローカットフィルターを有効にすると、以下の周波数の音声にフィルターをかけて、音声を減衰します。空調設備や屋外での風切音などによるノイズを軽減します。 オフ*： LCF(Low Cut)機能は無効になります。 75Hz： 75Hz以下の周波数の音声を減衰します。 150Hz： 150Hz以下の周波数の音声を減衰します。 **Information** • 「75 Hz」は録音の音質へ影響が少なくなるように設定されていますが、ノイズの種類によっては効果が少ない場合があります。その場合は「150 Hz」をお試しください。
	プリレコーディング	●RECボタンを押して録音スタンバイにすると、約5秒間分の音声をバッファに記録し、❚❚PAUSEまたは►ボタンを押して録音を開始すると、約5秒前から録音を開始する機能です。 オン： プリレコーディング機能が有効になります。録音を開始すると、ボタンを押した時点の5秒前から録音を開始します。 オフ*：プリレコーディング機能は無効になります。録音を開始すると、ボタンを押した時点から録音を開始します。
	デジタルシンクロ録音	LINE IN (OPT)ジャックにデジタル機器を接続してデジタル録音時、外部機器の再生信号と同時に録音を開始するシンクロ録音を有効、無効に設定します。 オン： シンクロ録音機能が有効になります。 オフ*：シンクロ録音機能は無効になります。録音を開始するには、通常のように●RECボタンと、❚❚PAUSEまたは►ボタンを押します。
	プラグインパワー	MICジャックにプラグインパワー対応のマイクロホンを接続した場合、マイクロホンの電源をリニアPCMレコーダーから供給するプラグインパワー機能を有効、無効に設定します。 オン： プラグインパワー機能が有効になります。 オフ*：プラグインパワー機能は無効になります。

次のページへ続く…▶

メニュー	設定項目	設定内容(*：お買い上げ時の設定)
録音設定	クロスメモリー録音	内蔵メモリーまたはメモリーカードの残量が録音途中でなくなった場合でも、自動的にもう一方のメモリーに切り換えて録音を続けるクロスメモリー機能を有効、無効に設定します。 オン： クロスメモリー録音が有効になります。 オフ*：クロスメモリー機能は無効になり、メモリーが一杯になった時点で録音を停止します。
再生設定	DPC (速度調節)	DPC (Digital Pitch Control)の設定をします。 再生速度を、0.25倍速から2.00倍速の間で調節をします。 (55 ページ) 0.05倍速刻みで遅くする(×0.25 ～ ×1.00) 0.10倍速刻みで速くする(×1.00 ～ ×2.00)
	キーコントロール	再生音の音程を、半音ずつ上下13段階(#1 ～ #6 (#1刻み)、0*、♭1 ～♭6 (♭1刻み))に調節します。(54 ページ)
	エフェクト	再生する音楽に合わせた効果を設定します。また、カスタム設定でお好みの音質を設定することもできます。(54 ページ)
	アップサンプリング	音源のサンプリング周波数を2倍または4倍に擬似的に補間することにより、再生音質を高めることができます。(55 ページ)
	イージーサーチ	早戻し、早送りの間隔を設定することにより、再生したい場所をすばやく探すことができます。 オン： 再生中、▶▶Iを押すと、設定した間隔進み、I◀◀を押すと、設定した間隔戻ります。 オフ*：イージーサーチ機能を無効にします。 I◀◀または▶▶Iを押すと、ファイルを早送り／早戻しします。 間隔設定イージーサーチ送り、戻しの間隔を設定します。 • 設定完了：イージーサーチ送り、イージーサーチ戻しの設定を有効にします。 • イージーサーチ送り：▶▶Iを押したときに進む間隔を、5秒、10秒*、30秒、1分、5分、10分から選びます。 • イージーサーチ戻し：I◀◀を押したときに戻る間隔を、1秒、3秒*、5秒、10秒、30秒、1分、5分、10分から選びます。

メニュー	設定項目	設定内容(*：お買い上げ時の設定)
再生設定	再生モード	シャッフル再生やリピート再生など、用途に応じた再生モードを選ぶことができます。 1： 1ファイルを再生します。 🗀*： フォルダ内のファイルを連続再生します。 ALL： 全ファイルを連続再生します。 ↻1： ファイルをリピート再生します。 ↻🗀： フォルダ内のファイルをリピート再生します。 ↻ ALL：全ファイルをリピート再生します。 🔀🗀： 「ミュージック」内で選択されているフォルダ内の全ファイルを順不同に再生します。 🔀 ALL：「ミュージック」内の全フォルダ内の全ファイルを順不同に再生します。
	リスト表示形式	録音されたファイルのフォルダリストの表示形式を設定します。 フォルダ表示*： フォルダリストを表示します。 カレンダー表示：カレンダーを表示します。
共通設定	LED	ACCESSランプ、ピークレベルランプ、●RECランプ、❚❚PAUSEランプが点灯／点滅して、動作状態を示します。 オン*：ランプが点灯／点滅します。 オフ： ランプは点灯／点滅しません。
	メモリー切り換え	録音したファイルを保存するメモリー、または再生するファイルが保存されているメモリーを選びます。 内蔵メモリー*： 内蔵メモリーを使用します。 メモリーカード：メモリーカードスロットに挿入しているメモリーカードを使用します。
	言語設定(Language)	メニュー、メッセージ、フォルダ名、ファイル名に使用する言語を設定します。 English： 英語で表示します。 日本語*： 日本語で表示します。
	時計設定	時計を設定します。 (26 ページ)
	時刻表示形式	時刻表示形式を設定します。 12時間*： 12：00AM＝真夜中、12：00PM＝正午 24時間： 0：00＝真夜中、12：00＝正午
	リモコン設定	混信防止のため、付属リモコン(送信ユニット、受信ユニット)のチャンネル数を設定します。 CH1*： チャンネル１に設定します。 CH2： チャンネル2に設定します。 CH3： チャンネル３に設定します。
	電池設定	最適化した動作のために、使用する電池の種類を選択します。 アルカリ乾電池*： アルカリ乾電池を使用するときに選びます。 ニッケル水素電池： 充電式ニッケル水素電池を使用するときに選びます。

次のページへ続く…▶

メニュー	設定項目	設定内容(*:お買い上げ時の設定)
共通設定	ファンクションキー設定	F1、F2ボタンによく使う機能を登録することにより、F1またはF2ボタンを押すだけで設定画面を表示することができます(67ページ)。お買い上げ時には以下の機能が割り当てられています。 F1: リミッター* F2: LCF(Low Cut)*
	設定初期化	メニューの設定をお買い上げ時の状態に戻すことができます。 はい: 「しばらくお待ちください」が表示され、設定を初期化します。 いいえ: 初期化しません。 **Information** • 保護、メモリー切り換え、時計設定については初期化されません。
	メモリー初期化	「メモリー切り換え」メニューで選んでいる使用中のメモリー内のすべてのデータを消去し、フォルダ構成を初期状態に戻します。使用中のメモリーが内蔵メモリーか、メモリーカードかを確認してから、「はい」を選んでください。 **Information** • リニアPCMレコーダーで使うメモリーカードはパソコンで初期化しないでください。 • 内蔵メモリーを初期化すると、すべてのデータが消去されてしまいます。(保護されたファイルも消去されます。)一度消去したファイルはもとに戻すことはできませんので、ご注意ください。
	本体情報	本体の型名、ソフトウェアのバージョン番号や本体およびメモリーカードの空き容量を表示します。▲または▼で画面をスクロールすることができます。

使用上のご注意

ご使用場所について

運転中のご使用は危険ですのでおやめください。

取り扱いについて

- 落としたり重いものを載せたり、強いショックを与えたり圧力をかけたりしないでください。故障の原因になります。
- コードを強くひっぱらないでください。
- キャビネットの変形や故障を防ぐために、次のことをお守りください。
  - リニアPCMレコーダーをズボンなどの後ろのポケットに入れて座らない。
  - リニアPCMレコーダーにヘッドホンを巻きつけたまま、かばんの中に入れ、外から大きな力を加えない。
- 次のような場所には置かないでください。
  - 温度が非常に高いところ(60℃以上)
  - 直射日光の当たる場所や暖房器具の近く
  - 窓を閉めきった自動車内(とくに夏季)
  - 風呂場など、湿気の多いところ
  - 磁石、スピーカー、テレビなどの磁気を帯びたものの近く
  - ほこりの多いところ
- ラジオやテレビの音に雑音が入るときは、リニアPCMレコーダーの電源を切って、リニアPCMレコーダーをラジオやテレビから離してください。
- 水がかからないようご注意ください。リニアPCMレコーダーは防水仕様ではありません。特に以下の場合ご注意ください。
  - 洗面所などでリニアPCMレコーダーをポケットに入れての使用。
  - 身体をかがめたときなどに、落として水濡れの原因になる場合があります。
  - 雨や雪、湿度の多い場所での使用。
  - 汗をかく状況での使用。
    濡れた手で触ったり、汗をかいた衣服のポケットにリニアPCMレコーダーを入れると、水濡れの原因になることがあります。
- 空気が乾燥する時期にヘッドホンを使用すると、耳にピリピリと痛みを感じることがありますが、ヘッドホンの故障ではなく、人体に蓄積された静電気によるものです。静電気の発生しにくい天然素材の衣服を身に着けていただくことにより、軽減されます。

温度上昇について

長時間お使いになったときに、本体の温度が上昇することがありますが、危険ではありません。

ノイズについて

- 録音中や再生中にリニアPCMレコーダーを電灯線、蛍光灯、携帯電話などに近づけすぎると、ノイズが入ることがあります。
- 録音中にリニアPCMレコーダーに手などが当たったり、こすったりすると、雑音が録音されることがあります。

ヘッドホン出力について

音量を上げすぎないようにご注意ください。リニアPCMレコーダーは、ヘッドホンの出力が大きい為、一般の機器に比べて音量が大きめに設定されていますので、適切な音量に調節してお聞きください。

内蔵マイクロホンについて

リニアPCMレコーダーの内蔵マイクロホンは高性能エレクトレットコンデンサーマイクロホンです。マイクロホン部に強い風を吹きかけたり、水をかけたりしないでください。

次のページへ続く…▶

お手入れ

本体表面が汚れたときは、水気を含ませた柔らかい布で軽くふいたあと、からぶきします。シンナーやベンジン、アルコール類は表面の仕上げを傷めますので使わないでください。

バックアップのおすすめ

万一の誤消去や、リニアPCMレコーダーの故障などによるデータの消滅や破損にそなえ、大切な録音内容は、必ずパソコンなどにバックアップしてください。

ACアダプターについて

- この製品には、付属のACアダプター（極性統一形プラグ・JEITA規格）をご使用ください。上記以外の製品を使用すると、故障の原因になることがあります。
- ACアダプターは容易に手が届くような電源コンセントに接続し、異常が生じた場合は速やかにコンセントから抜いてください。
- ACアダプターをご使用時は、以下の点にご注意ください。
  - ACアダプターを本棚や組み込み式キャビネットなどの狭い場所に置かないでください。
  - 火災や感電の危険を避けるために、水のかかる場所や湿気のある場所では使用しないでください。また、ACアダプターの上に花瓶など水の入ったものを置かないでください。

海外での充電式電池の廃棄について

各国の法規制に従って廃棄してください。

本体・付属品について

本体、および付属品が肌に合わないと感じたときは、早めに使用を中止して医師またはソニーの相談窓口（裏表紙）にご相談ください。

別売のヘッドホンについて

- 一部のヘッドホンは、音量を上げすぎると音が外にもれます。音量を上げすぎて、まわりの人の迷惑にならないように気をつけましょう。雑音の多いところでは音量を上げてしまいがちですが、ヘッドホンで聞くときはいつも呼びかけられて返事ができるくらいの音量を、目安にしてください。
- イヤーピースは、長期の使用・保存により劣化する恐れがあります。
- ヘッドホンは、ステレオミニプラグのものをお求めください。マイクロプラグのものは使えません。
- ノイズキャンセリングヘッドホンの一部の機種は、ご使用になれない場合があります。

万一故障した場合は、内部を開けずに、ソニーの相談窓口へご相談ください。

故障？と思われたときは

困ったときは

「症状から調べる」(84 ページ)の各項目で調べる。

電池を入れなおす。
電池を入れなおすと問題が解決することがあります。

ACアダプターを抜き差しする。
ACアダプターを抜き差しすると問題が解決することがあります。

パソコンを利用できる場合

- **ヘルプガイドで調べる(5 ページ)**
  インターネットに接続できる環境の場合、下記のサイトから、ヘルプガイドをダウンロードして、パソコンでリニアPCMレコーダーの詳細な操作方法を調べることができます。
  http://rd1.sony.net/help/icd/pcmd100/jp/
- **リニアPCMレコーダー「サポート・お問い合わせ」のホームページで調べる(裏表紙)**
  インターネットに接続できる環境の場合、サポートホームページで最新情報を調べることができます。
- **Sound Forge Audio Studio LEのヘルプで調べる(「Sound Forge Audio Studio LEを使う」(別冊))**
  Sound Forge Audio Studio LEについての操作方法はSound Forge Audio Studio LEのヘルプで調べることができます。

上記を確認しても問題が解決しないときは、下記の操作を行ってみてください。それでも解決しないときは、ソニーの相談窓口(裏表紙)またはお買い上げ店にご相談ください。

修理を依頼される前に、下記の流れに従って確認してください。

1 本体内の電池を取りはずすか、ACアダプターを抜いて、すべての電源を一度切ってから、再度電源を入れてください。また、内蔵メモリーとメモリーカードをリニアPCMレコーダーで初期化してください。
(初期化するとメモリー内のすべてのデータが消去されますので、ご注意ください。)

2 次ページからの「症状から調べる」の項目と、メッセージ一覧をもう一度チェックし、リニアPCMレコーダーを点検します。

次のページへ続く…▶

症状から調べる

修理を依頼される前に、もう一度下記項目をチェックしてみてください。
なお、保証書とアフターサービスについては、92 ページをご参照願います。修理に出すと、録音した内容が消えることがあります。ご了承ください。

症状	原因／処置
操作ボタンを押しても動作しない。	• 電池の⊕と⊖の向きを正しく挿入し直してください（23 ページ）。 • 電池が消耗しています。交換してください（23 ページ）。 • 誤操作防止の状態になっています。HOLDスイッチを「OFF」側にずらしてください（36 ページ）。 • POWERスイッチが「OFF」になっています。「ON」にしてください。
録音できない。	• INPUTスイッチの位置が間違っています。内蔵または外部マイクロホンを使って録音するときは「MIC」（マイクロホン）の位置に、外部機器を接続して録音するときは「LINE」の位置に合わせてください（40、45、47 ～ 48 ページ）。 • 録音はされていても再生音声がしない場合は、録音時の音量が低く設定されている可能性があります。REC LEVELダイヤルの位置を調節してください。 • 「♫ミュージック」で管理されているフォルダには録音できません。 • メモリーがいっぱいになっているか、選んだフォルダに199ファイル録音されているため、これ以上のファイルを録音できません。別のフォルダを選ぶか（40 ページ）、不要なファイルを消去するか（65 ページ）、パソコンに保存してから、メモリーの内容を消去します。あるいは、空き容量のあるメモリーカードに録音します（28 ページ）。 • メモリーカードを使用している場合、メモリーカードの誤消去防止スイッチが「LOCK」の位置になっています。解除してください。 • 外部マイクロホンを使用するときはメニューの「プラグインパワー」の設定をご確認ください。
デジタルシンクロ録音ができない。	• 再生していないときでもデジタル信号が出力される機器を接続した場合は、デジタルシンクロ録音はできません。（48 ページ）
アクセスランプ、ピークレベルランプ、●REC ／ ❚❚PAUSEランプが点灯／点滅しない。	• メニュー「各種設定」の「LED」が「オフ」に設定されています。「オン」に切り換えてください（79 ページ）。

症状	原因／処置
ファイルを消去できない。	• メモリーカードを使用している場合、メモリーカードが書込み禁止（WriteProtect）の設定になっています。設定を解除してください。 • Windowsを使用している場合、ファイル（またはそのファイルの入っているフォルダ）が、パソコン上で「読み取り専用」に設定されています。パソコンでファイルまたはフォルダを表示し、プロパティの「読み取り専用」のチェックをはずしてください。 • Macintoshを使用している場合、ファイル（またはそのファイルの入っているフォルダ）が、パソコン上で「ロック」に設定されています。パソコンでファイルまたはフォルダを表示し、「ファイル」の「情報を見る」から、「ロック」のチェックをはずしてください。 • 電池残量が少なくなっています。ACアダプターを接続するか（25 ページ）、電池を交換してください（23 ページ）。 • 保護されているファイルは消去できません。保護設定を解除してから操作してください。
ファイルを分割できない。	• メモリーに一定の空き容量がありません。 • 選んだフォルダに199のファイルが入っています。不要なファイルを消去するか、別のフォルダを選んでください。 • システムの制約により、ファイルのはじめと終わりでファイル分割できないことがあります。 • リニアPCMレコーダーで録音されたファイル以外（パソコンから転送したファイル）は、分割できません。 • 保護されているファイルは分割できません。
ファイルを移動できない。	• 保護されているファイルは移動できません。
雑音が入る。	• 録音中にリニアPCMレコーダーをこすると、雑音が録音されます。 • 容量の小さなファイルが多数記録されているメモリーに録音すると、雑音が入ることがあります。メモリー内のファイルをパソコンに保存してから、リニアPCMレコーダーでメモリーの初期化をしてください（80 ページ）。 • 録音中や再生中にリニアPCMレコーダーを電灯線、蛍光灯、携帯電話などに近づけすぎると、雑音が入ることがあります。リニアPCMレコーダーを離してください。 • 外部マイクロホンで録音したとき、マイクロホンのプラグが汚れていると雑音が入ることがあります。プラグをきれいにクリーニングしてください。 • ヘッドホンやイヤホンで聞いているとき、ヘッドホンのプラグが汚れていると雑音が入ることがあります。プラグをきれいにクリーニングしてください。

次のページへ続く…▶

症状	原因／処置
入力される音がひずむ。	• INPUTスイッチの位置が間違っています。音源、接続に合わせた位置に合わせてください（40、45、47 ～ 48 ページ）。 • 録音レベルを適切な範囲に調整してください（41 ページ）。 • 外部マイクロホンを使って録音しているとき、音源の音量が大きすぎる場合は、MIC ATTスイッチを「20」の位置に合わせてください（38 ページ）。または、音源からマイクロホンを離してください。 • 入力される音に入力過多な部分があります。メニュー項目の「リミッター」を有効に設定してください（76 ページ）。
録音中「ピー」という音がする。	• ヘッドホンで録音中の音を聞いているとき、ヘッドホンがマイクロホンと近すぎると「ピー」という音（ハウリング）がする場合があります。ヘッドホンから出力される音を小さくするか、マイクロホンとヘッドホンを離してください。
録音日時が「－－y－－m－－d－－:－－」と表示される。	• 時計を合わせてください（26 ページ）。時計を合わせた後に録音すると、録音日時が表示されます。
オプションメニュー表示の項目が足りない。	• 再生、または録音中は、表示されない項目があります。
パソコンで認識しない。パソコンからフォルダ、ファイルが転送できない。	• パソコンからリニアPCMレコーダーをはずし、再度接続してください。 • リニアPCMレコーダーが対応しているシステム構成以外では、動作保証はいたしかねます。 • お使いのパソコンのUSBポートの位置によっては、認識できないことがあります。別のUSBポートに接続してください。
リニアPCMレコーダーに転送したファイルが表示されない、または再生されない。	• 表示できるフォルダは8階層目までです。 • リニアPCMレコーダーで対応している以外のファイルは、表示されない場合があります。リニアPCMレコーダーの仕様をご確認ください（94 ページ）。
フォルダ名やファイル名が文字化けしてしまう。	• WindowsのエクスプローラまたはMacintoshのFinderを使ってパソコンで名前を入力した場合、リニアPCMレコーダーで対応していない特殊文字や記号が混ざっていると、リニアPCMレコーダーの表示窓では文字化けすることがあります。
「しばらくお待ちください」表示が消えない。	• ファイル数が多いと、長時間表示されることがありますが、故障ではありません。表示が消えるまでお待ちください。このとき電池やACアダプターを抜かないでください。

症状	原因／処置
97 ページの最大録音時間まで録音できない。	• 音声データ以外のデータ（画像データなど）がメモリーに保存されていると、最大録音時間まで録音できません。 • メモリーカードには最小録音単位があるため、ファイルの数が多いと、端数が出ることにより実際の録音可能時間が最大録音時間より短くなることがあります。 • 97 ページに記載されている録音可能時間は目安です。ファイル数により変わる場合があります。 • 上記の理由により、実際に録音した時間（カウンター表示）の合計と、「録音可能時間」を合計した時間が、最大録音時間より少なくなる場合があります。 •「メモリーが一杯です」と表示されて録音が停止しても、メモリー内に編集用のエリアを確保しているため、空き容量が残っています。故障ではありません。 • ひとつのファイルでの録音容量が2 GB（LPCM ／ DSDファイルの場合）／ 1 GB（MP3ファイルの場合）を超えると、リニアPCMレコーダーの仕様上、別ファイルでの録音が始まります。
メモリーカードが認識されない。	• メモリーカード内の別ファイル（画像データなど）によって、初期フォルダを作成するために必要な容量が不足しています。WindowsのエクスプローラまたはMacintoshのFinderなどから不要なデータを消去するか、リニアPCMレコーダーでメモリーの初期化を行ってください。 • メニューの「メモリー切り換え」で「メモリーカード」を選んでください（29 ページ）。
スピーカーから音が出ない。	• ヘッドホンをつないでいます（50 ページ）。
ヘッドホンをつないでいても、スピーカーから音が出る。	• 再生中にヘッドホンを差し込むとき、最後まで差し込まないとスピーカーからも音が聞こえてしまうことがあります。
再生スピードが速すぎたり遅すぎたりする。	• DPC（速度調節）の設定が「オン」になっているため、調節した再生スピードで再生されています。DPC（速度調節）の設定を「オフ」にすると、通常の速度で再生されます。または、DPC（速度調節）の設定で再生スピードを調節してください（55 ページ）。
ファイルを再生できない。	• リニアPCMレコーダーが対応しているファイル以外は再生できない場合があります。「主な仕様」（93 ページ）をご覧ください。

メッセージ一覧

メッセージ	意味／処置
時計を設定してください	時計が設定されていません。時計を設定してから、リニアPCMレコーダーをご使用ください(26 ページ)。
LPCM 16bitのみ有効です	量子化ビット数が16bitの設定をしているときのみ、「SBM」が有効になります(75 ページ)。
ファイルが一杯です	全体で4,095ファイル(フォルダを含む)に達したため、録音やファイル分割ができません。別のフォルダに録音してください。または不要なファイルを消去するか(65 ページ)、パソコンに保存してファイル数を減らしてください。
メモリーが一杯です	内蔵メモリーまたはメモリーカードの残量がなくなりました。不要なファイルを消去するか(65 ページ)、パソコンに保存してメモリーの内容を消去してください。
メモリーカードがロックされています	メモリーカードが書込み禁止(WriteProtect)の設定になっています。メモリーカードを取り出してロックを解除してください。
読み取り専用のメモリーカードです	読み取り専用、ROMタイプのメモリーカードです。リニアPCMレコーダーが対応するメモリーカードをお使いください(29 ページ)。
アクセスは禁止されています	アクセスコントロール機能付のメモリーカードです。録音や再生などの機能が制限されており、リニアPCMレコーダーではお使いになれません。リニアPCMレコーダーが対応するメモリーカードをお使いください(29 ページ)。
非対応のメモリーカードです	非対応のメモリーカードです。リニアPCMレコーダーが対応するメモリーカードをお使いください(29 ページ)。
メモリーカードがありません	メモリーカードが入っていないため、「メモリー切り換え」、「ファイル移動／コピー」の「メモリーカードへ移動」、「メモリーカードへコピー」、「クロスメモリー録音」の設定はできません。リニアPCMレコーダーが対応するメモリーカードをリニアPCMレコーダーに入れてください(29 ページ)。
ファイルが保護されています	Windowsの場合 パソコン上で「読み取り専用」に設定されたファイルは消去できません。パソコンでファイルを表示し、プロパティの「読み取り専用」のチェックをはずしてください。 Macintoshの場合 パソコン上で「ロック」に設定されたファイルは消去できません。パソコンでファイルを表示し、「ファイル」の「情報を見る」から、「ロック」のチェックをはずしてください。
非対応のデータです	再生／録音しようとしているファイルが、非対応のデータであるかファイル形式が異なるため、リニアPCMレコーダーで再生／録音できません。
ファイルが壊れています	再生／編集しようとしているファイルが壊れているため、リニアPCMレコーダーで再生または編集を実行できません。
ファイルがありません	現在選択されているフォルダにファイルがありません。

メッセージ	意味／処置
新しいファイルで録音を継続します	録音中にファイルのファイルサイズが2 GB（LPCM ／ DSDファイルの場合）／1 GB（MP3ファイルの場合）を超えたため、新しいファイルとして録音します。
メモリーを切り換えて録音を継続します	「クロスメモリー録音」が「オン」に設定されているとき、使用中の内蔵メモリーまたはメモリーカードが一杯になったため、もう一方のメモリーに新しいファイルとして録音を継続します。
録音先フォルダを切り換えました	録音先フォルダが一杯になったため、他のフォルダに切り換えて録音します。
電池が残りわずかです	電池残量が残りわずかのため、消去や初期化などの操作ができません。電池を交換するか(23 ページ)、ACアダプターを接続してください(25 ページ)。
デジタルの信号なし	デジタル録音時、リニアPCMレコーダーのLINE IN（OPT）ジャックに接続した光接続ケーブルからの入力がありません。接続を確認してください。
コピーできないデジタル信号	デジタル録音時、リニアPCMレコーダーのLINE IN（OPT）ジャックに接続したデジタル機器からコピー禁止の音源が入力されたため、録音できません。
トラックマークがありません	トラックマークが設定されていないため、トラックマークの消去、全分割が実行できません。
トラックマークが一杯です	すでに上限までトラックマークを設定しているため、これ以上追加できません。不要なトラックマークを消去してください(60 ページ)。
メモリーカードエラー	もう一度メモリーカードを入れてください。再度この表示が出たときは、メモリーカードに問題がある場合があります。その際は、メモリーカードをパソコンに接続し、データの修復作業を行い、データをパソコンにバックアップしてから、リニアPCMレコーダーでメモリー初期化を行ってください。
停止してからメモリーカードを再挿入してください	再生、録音処理中にメモリーカードを挿入したため、メモリーカードが認識できませんでした。一度メモリーカードを抜いてから、停止状態のときに、挿入してください。
内蔵メモリーの初期化が必要です／メモリーカードの初期化が必要です	他機で初期化されたメモリー（内蔵メモリーまたはメモリーカード）は使用できません。各種設定画面の「メモリー初期化」でメモリーを初期化してください(80 ページ)。パソコンなどでは初期化しないでください。
編集できないファイル形式です	• トラックマークに対応していないファイル形式のファイルにトラックマークを登録しようとしています。 • 分割できないファイル形式のファイルを分割しようとしています。 • フェードイン、フェードアウトに対応していないファイルに、フェードイン、フェードアウトの設定をしようとしています。 • 結合に対応していないファイル形式のファイルを結合しようとしています。

次のページへ続く…▶

メッセージ	意味／処置
操作できません	• 「♫ミュージック」で管理されているファイルは分割やトラックマーク設定ができません。 • メモリーカードが後発不良(BADBLOCK)になった場合、データの書き込みができません。新しいメモリーカードを準備してください。 • ファイル名が最大文字数に達しているため、分割できません。ファイル名を短くしてください。 • 分割実行位置の前後0.5秒未満にトラックマークが設定されているため、すべてのトラックマーク位置での分割が実行できません。 • ファイルの先頭または終端から0.5秒未満にトラックマークが設定されているため、すべてのトラックマーク位置での分割が実行できません。 • ファイルの長さが1秒未満のため、分割できません。 • ファイルの先頭または終端から0.5秒未満では、現在位置での分割は実行できません。
録音中は操作できません／再生中は操作できません	オプションメニューや各種設定メニューで、録音中や再生中は実行できない項目を選んでいます。 録音または再生を停止してから、操作してください。
電池残量がありません	電池が消耗しています。電池を交換してください(23 ページ)。
故障です	システム障害が発生しました。本体内の電池を取りはずすか、ACアダプターを抜いて、すべての電源を一度切ってから、再度電源を入れてください。再びこの表示が出た場合は、ソニーの相談窓口(裏表紙)にお問い合わせください。
処理を継続できません	プロセス障害が発生しました。本体内の電池を取りはずすか、ACアダプターを抜いて、すべての電源を一度切ってから、再度電源を入れてください。再びこの表示が出た場合は、ソニーの相談窓口(裏表紙)にお問い合わせください。
ホールド中 ホールドスイッチを解除してください	リニアPCMレコーダーのHOLDスイッチが「ON」に設定され、誤操作防止(ホールド)状態になっているため、操作できません。(別売のリモコンからは操作できます。) 操作を行うためには、HOLDスイッチを「OFF」に切り替えてください。
この画面では無効です	ファンクションキー (F1/F2)をお使いになれないときに、ファンクションキーを押しています。

システム上の制約

リニアPCMレコーダーの録音方式では、いくつかのシステム上の制約があり、次のような症状が出る場合があります。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

症状	原因／処置
最大録音時間まで録音できない。	様々な録音モードを混ぜて録音すると、最大録音時間は各モードの最大録音時間の間になります。上記の理由により、実際に録音した時間（カウンター表示）の合計と、「録音可能時間」を合計した時間が、最大録音時間より少なくなる場合があります。
音楽ファイルを順番に表示、再生できない。	パソコンを使って、リニアPCMレコーダーに転送した音楽ファイルは、システムの制約により転送順にならないことがあります。パソコンにある音楽ファイルを1ファイルずつリニアPCMレコーダーに転送すると、表示、再生の順番を転送順に合わせることができます。
録音中に自動的に分割されてしまう。	録音中のファイルまたは音楽がファイルサイズの上限（LPCM ／ DSDは2 GB、MP3は1 GB）に達しています。ファイルは自動的に分割されます。
英文字がすべて大文字になってしまう。	パソコンで作成したフォルダ名称の文字の組み合わせによっては英文字がすべて大文字になってしまうことがあります。
フォルダ名、ファイル名、アーティスト名、タイトル名が文字化け、または「□」が表示される。	リニアPCMレコーダーで表示できない文字が使用されています。フォルダ名、ファイル名、アーティスト名または、タイトル名を半角英数字に置き換えてください。
A-Bリピート設定で、設定位置がずれてしまう。	ファイルによっては、設定位置がずれてしまうことがあります。
ファイルを分割すると、録音可能時間が少なくなる。	ファイルを分割すると、ファイル管理をする領域が必要になるため、録音可能時間が少なくなります。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間はお買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときは

ソニーの相談窓口（裏表紙）、お買い上げ店、またはソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に従って修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社ではリニアPCMレコーダーの補修・性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後6年間保有しています。
ただし、故障の状況その他の事情により、修理に代えて製品交換をする場合がありますのでご了承ください。

主な仕様

必要なシステム構成

パソコンと接続する場合や、USBメモリーとして使う場合に必要なシステム構成は以下の通りです。

Sound Forge Audio Studio LEをお使いの場合は、「Sound Forge Audio Studio LEを使う」（別冊）をご覧ください。

OS

- Windows 10 Home
- Windows 10 Pro
- Windows 8.1
- Windows 8.1 Pro
- Windows 7 Ultimate Service Pack 1以降
- Windows 7 Professional Service Pack 1以降
- Windows 7 Home Premium Service Pack 1以降
- Windows 7 Home Basic Service Pack 1以降
- Windows 7 Starter Service Pack 1以降
- macOS（v10.5 ～ v10.12）

標準インストール（日本語版のみ）

ご注意

- 上記のOSがパソコン工場出荷時にインストールされている必要があります。
  アップグレードした場合や、マルチブート環境の場合は、動作保証いたしません。
- 最新の対応OSについては、裏表紙に記載のリニアPCMレコーダー「サポート・お問い合わせ」ページをご覧ください。

以下の性能を満たしたWindowsコンピューターまたはMac

- サウンドボード：各OSに対応したもの
- USBポート
- ディスクドライブ：音楽CDを作成する場合はCD-R/RWドライブが必要です。

ご注意

- 推奨環境すべてのパソコンについて動作を保証するものではありません。
  また、自作パソコンなどへお客様自身がインストールしたものや、アップグレードしたもの、マルチブート環境、マルチモニタ環境での動作保証はいたしません。

次のページへ続く…▶

リニアPCMレコーダーの仕様

容量（ユーザー使用可能領域：リニアPCMレコーダーで内蔵メモリーを初期化した場合）
32 GB（約25.60 GB = 27,487,790,694 Byte）
メモリー容量の一部をデータ管理領域として使用しています。

最大フォルダ数（1ドライブ内）
400フォルダ

最大ファイル数（1フォルダ内）
199ファイル

最大ファイル数（1ドライブ内）
4,074ファイル（フォルダ数が21の場合）

周波数範囲
（録音再生時：LINE IN(OPT) ジャック入力、LINE OUT(OPT) ジャック出力時）（0 dB ～ –6 dB）

- DSD 2.8MHz ／ 1bit（STEREO）
  20 Hz ～ 50,000 Hz

（録音再生時：LINE IN(OPT) ジャック入力、LINE OUT(OPT) ジャック出力時）（0 dB ～ –2 dB）

- LPCM 192kHz ／ 24bit
  20 Hz ～ 45,000 Hz
- LPCM 176.4kHz ／ 24bit
  20 Hz ～ 45,000 Hz
- LPCM 96kHz ／ 24,16bit
  20 Hz ～ 40,000 Hz
- LPCM 88.2kHz ／ 24,16bit
  20 Hz ～ 38,000Hz
- LPCM 48kHz ／ 24,16bit
  20 Hz ～ 22,000 Hz
- LPCM 44.1kHz ／ 24,16bit
  20 Hz ～ 20,000 Hz
- MP3 320 kbps 20 Hz ～ 20,000 Hz
- MP3 128 kbps 20 Hz ～ 16,000 Hz

再生対応ファイルフォーマット*1

*1 すべてのエンコーダーに対応しているわけではありません。

DSD
- ビットレート：1ビット
- サンプリング周波数：2.8224 MHz
- 拡張子：.dff、.dsf

FLAC
- ビットレート：24/16ビット
- サンプリング周波数：44.1 ／ 48 ／ 88.2 ／ 96 ／ 176.4 ／ 192 kHz
- 拡張子：.flac

FLAC
- ビットレート：16ビット
- サンプリング周波数：22.05 kHz
- 拡張子：.flac

リニアPCM
- ビットレート：24/16ビット
- サンプリング周波数：44.1 ／ 48 ／ 88.2 ／ 96 ／ 176.4 ／ 192kHz
- 拡張子：.wav

リニアPCM
- ビットレート：16ビット
- サンプリング周波数：22.05 kHz
- 拡張子：.wav

MP3*2

- ビットレート：32 kbps ～ 320 kbps、可変ビットレート(VBR)対応
- サンプリング周波数：16 ／ 22.05 ／ 24 ／ 32 ／ 44.1 ／ 48 kHz
- 拡張子：.mp3

*2 これに加えてリニアPCMレコーダーの各録音モードで録音したMP3ファイルの再生にも対応しています。

WMA*3

- ビットレート：32 kbps ～ 192 kbps、可変ビットレート(VBR)対応
- サンプリング周波数：44.1 kHz
- 拡張子：.wma

*3 WMA Ver.9には準拠していますが、MBR (Multi Bit Rate)、Lossless、Professional、Voiceには対応していません。著作権保護されたファイルは再生できません。

AAC-LC*4

- ビットレート：16 kbps ～ 320 kbps、可変ビットレート(VBR)対応
- サンプリング周波数：11.025 ／ 12 ／ 16 ／ 22.05 ／ 24 ／ 32 ／ 44.1 ／ 48 kHz
- 拡張子：.m4a

*4 著作権保護されたファイルは再生できません。

信号対雑音比(SN比)(録音再生時：LINE IN(OPT)ジャック入力、LINE OUT(OPT)ジャック出力時)(1kHz IHF-A)

- DSD 2.8 MHz ／ 1 bit：98 dB以上
- LPCM 192 kHz ／ 176.4 kHz ／ 96 kHz ／ 88.2 kHz ／ 48 kHz ／ 44.1 kHz 24 bit：96 dB以上(S/N 100dBオフ時) ／ 100 dB以上(S/N 100dBオン時)

全高調波ひずみ率(録音再生時：LINE IN(OPT)ジャック入力、LINE OUT(OPT)ジャック出力時)

- DSD 2.8 MHz 1 bit：0.008 %以下(1 kHz、22 kHz LPF)
- LPCM 192 kHz ／ 176.4 kHz 24bit、96 kHz ／ 88.2 kHz ／ 48 kHz ／ 44.1 kHz 16 bit/24 bit：0.006 %以下(1 kHz、22 kHz LPF)

スピーカー

直径16 mm

入出力端子

MIC (マイクロホン)ジャック(ステレオミニ)

入力インピーダンス：22 kΩ
規定入力レベル：2.5 mV
最小入力レベル：0.7 mV

🎧 (ヘッドホン)ジャック(ステレオミニ)

規定出力レベル：400 mV
最大出力レベル：25 mW+25 mW以上
推奨負荷インピーダンス：16 Ω

LINE IN (OPT)ジャック

入力インピーダンス：22 kΩ
規定入力レベル：2.0 V
最小入力レベル：450 mV

入力レベル：−27 dBm ～−14 dBm (光デジタル入力時)

受光波長：660nm (Typ) (光デジタル入力時)

次のページへ続く…▶

LINE OUT（OPT）ジャック

出力インピーダンス：220 Ω

規定出力レベル：1.7 V

推奨負荷インピーダンス：22 kΩ

出力レベル：−21 dBm ～−15 dBm（光デジタル出力時）

発光波長：640 nm ～ 680 nm（光デジタル出力時）

DC IN 6 Vジャック（極性統一型プラグ）

USB端子（micro-B、Hi-speed USB、マスストレージ対応）

SDカードおよびメモリースティック™対応スロット

再生スピード調節（DPC）

2.00倍速～ 0.25倍速：リニアPCM ／ MP3 ／ WMA ／ AAC-LC ／ FLAC

実用最大出力

200 mW

電源

- DC 6.0 V ACアダプター（付属）使用時
- DC 6.0 V 単3形アルカリ乾電池（付属）4本
- DC 4.8 V 単3形充電式ニッケル水素電池（別売）4本

消費電力

1.9 W（ACアダプター使用時）

0.1 W（電源オフ、ACアダプター使用時）

動作温度

5 ℃～ 35 ℃

最大外形寸法（JEITA*5）

約72.0 mm×156.8 mm×32.7 mm（幅／高さ／奥行き）最大突起部含まず

質量　約395g（電池含む）（JEITA*5）

*5 電子情報技術産業協会（JEITA）の測定方法に基づいています。

付属品　「箱の中身を確認する」（22 ページ）をご覧ください。

リニアPCMレコーダーの仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

最大録音時間*1*2

最大録音可能時間は、全フォルダ合わせて下記のとおりです。

内蔵フラッシュメモリー（32 GB）

録音モード	最大録音時間
DSD 2.8MHz/1bit (STEREO)	約10時間50分
LPCM 192kHz/24bit (STEREO)	約6時間35分
LPCM 176.4kHz/24bit (STEREO)	約7時間10分
LPCM 96kHz/24bit (STEREO)	約13時間15分
LPCM 96kHz/16bit (STEREO)	約19時間50分
LPCM 88.2kHz/24bit (STEREO)	約14時間25分
LPCM 88.2kHz/16bit (STEREO)	約21時間35分
LPCM 48kHz/24bit (STEREO)	約26時間30分
LPCM 48kHz/16bit (STEREO)	約39時間45分
LPCM 44.1kHz/24bit (STEREO)	約28時間50分
LPCM 44.1kHz/16bit (STEREO)	約43時間15分
MP3 320 kbps (STEREO)	約190時間
MP3 128 kbps (STEREO)	約477時間

メモリーカード

録音モード	メモリーカード						
	2 GB	4 GB	8 GB	16 GB	32 GB	64 GB	128 GB
DSD 2.8MHz/1bit (STEREO)	約45分	約1時間30分	約3時間0分	約6時間5分	約12時間15分	約24時間30分	約49時間5分
LPCM 192kHz/24bit (STEREO)	約25分	約55分	約1時間50分	約3時間40分	約7時間25分	約14時間50分	約29時間45分
LPCM 176.4kHz/24bit (STEREO)	約30分	約1時間0分	約2時間0分	約4時間0分	約8時間5分	約16時間15分	約32時間30分
LPCM 96kHz/24bit (STEREO)	約55分	約1時間50分	約3時間40分	約7時間25分	約14時間50分	約29時間45分	約59時間35分

次のページへ続く…▶

録音モード	メモリーカード						
	2 GB	4 GB	8 GB	16 GB	32 GB	64 GB	128 GB
LPCM 96kHz/16bit (STEREO)	約1時間20分	約2時間45分	約5時間35分	約11時間10分	約22時間20分	約44時間40分	約89時間25分
LPCM 88.2kHz/24bit (STEREO)	約1時間0分	約2時間0分	約4時間0分	約8時間5分	約16時間10分	約32時間25分	約64時間55分
LPCM 88.2kHz/16bit (STEREO)	約1時間30分	約3時間0分	約6時間5分	約12時間10分	約24時間20分	約48時間40分	約97時間20分
LPCM 48kHz/24bit (STEREO)	約1時間50分	約3時間40分	約7時間25分	約14時間50分	約29時間45分	約59時間35分	約119時間
LPCM 48kHz/16bit (STEREO)	約2時間45分	約5時間35分	約11時間10分	約22時間20分	約44時間40分	約89時間25分	約178時間
LPCM 44.1kHz/24bit (STEREO)	約2時間0分	約4時間0分	約8時間5分	約16時間10分	約32時間25分	約64時間55分	約129時間
LPCM 44.1kHz/16bit (STEREO)	約3時間0分	約6時間5分	約12時間10分	約24時間20分	約48時間40分	約97時間20分	約194時間
MP3 320 kbps (STEREO)	約13時間25分	約26時間50分	約53時間40分	約107時間	約214時間	約429時間	約858時間
MP3 128 kbps (STEREO)	約33時間30分	約67時間5分	約134時間	約268時間	約536時間	約1,073時間	約2,147時間

*1 連続録音の場合は、付属のACアダプターが必要になります。詳しくは電池の持続時間（99 ページ）をご確認ください。

*2 表記の最大録音時間は目安です。カードの仕様によって変わることがあります。

音楽ファイル最大再生時間／ファイル数*3

ビットレート	再生時間	ファイル数
256kbps	約238時間	約3,570ファイル

*3 パソコンにある1ファイル4分のMP3ファイルを転送して再生する場合

電池の持続時間[*4]

乾電池の持続時間(ソニーアルカリ乾電池LR6 (SG) (付属)を連続使用時)

録音モード	録音時		再生時	
	(録音モニターあり)	(録音モニターなし)	スピーカー再生時[*5]	ヘッドホン再生時
DSD 2.8MHz/1bit (STEREO)	約8時間	約12時間	約17時間	約17時間
LPCM 192kHz/24bit (STEREO)	約10時間	約18時間	約15時間	約15時間
LPCM 96kHz/24bit (STEREO)	約11時間	約22時間	約18時間	約18時間
LPCM 44.1kHz/16bit (STEREO)	約12時間	約25時間	約21時間	約21時間
MP3 320 kbps (STEREO)	約12時間	約25時間	約21時間	約21時間

充電式電池の持続時間(ソニー充電式ニッケル水素電池NH-AA 2100mAh (別売)を連続使用時)

録音モード	録音時		再生時	
	(録音モニターあり)	(録音モニターなし)	スピーカー再生時[*5]	ヘッドホン再生時
DSD 2.8MHz/1bit (STEREO)	約9時間	約11時間	約15時間	約15時間
LPCM 192kHz/24bit (STEREO)	約10時間	約16時間	約14時間	約14時間
LPCM 96kHz/24bit (STEREO)	約12時間	約19時間	約16時間	約16時間
LPCM 44.1kHz/16bit (STEREO)	約13時間	約22時間	約18時間	約18時間
MP3 320 kbps (STEREO)	約13時間	約22時間	約18時間	約18時間

[*4] 電子情報技術産業協会(JEITA)規格による測定値です。使用条件によって短くなる場合があります。

[*5] 音量レベルを3に設定し、内蔵スピーカーで音楽を再生した場合。

⚠注意 下記の注意を守らないとけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

禁止 大音量で長時間つづけて聞きすぎない

耳を刺激するような大きな音で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。とくにヘッドホンで聞くときにご注意ください。呼びかけられて返事ができるくらいの音で聞きましょう。

禁止 はじめからボリュームを上げすぎない

突然大きな音が出て耳をいためることがあります。

ボリュームは徐々に上げましょう。とくに、リニアPCMレコーダー、MD、CDやDATなど、雑音の少ないデジタル機器をヘッドホンで聞くときにはご注意ください。

禁止 通電中のACアダプターや充電器に長時間ふれない

長時間皮膚がふれたままになっていると、低温やけどの原因となることがあります。

分解禁止 内部を開けない

感電の原因となることがあります。内部の点検修理は、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にお問い合わせください。

ぬれ手禁止 ぬれた手でACアダプターや充電器をさわらない

感電の原因となることがあります。

禁止 本体やACアダプターを布団などでおおった状態で使わない

熱がこもってケースが変形したり、火災の原因となることがあります。

電池についての安全上のご注意

液漏れ・破裂・発熱・発火・誤飲による大けがや失明を避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠危険

乾電池、充電式電池が液漏れしたとき

乾電池、充電式電池の液が漏れたときは素手で液を触らない

液が本体内部に残ることがあるため、ソニーサービス窓口にご相談する。

液が目に入ったときは、失明の原因になることがあるので目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師の治療を受ける。

液が身体や衣服についたときも、やけどやけがの原因になるので、すぐにきれいな水で洗い流し、皮膚に炎症やけがの症状があるときには医師に相談する。

⚠警告

乾電池・ボタン型電池について

- 小さい電池は飲み込む恐れがあるので、乳幼児の手の届くところに置かない。万が一飲み込んだ場合は、窒息や胃などへの障害の原因になるので、直ちに医師に相談する。
- 機器の表示に合わせて＋と－を正しく入れる。
- 充電しない。
- 火の中に入れない。分解、加熱しない。
- コイン、キー、ネックレスなどの金属類と一緒に携帯・保管しない。ショートさせない。
- 液漏れした電池は使わない。
- 使いきった電池は取りはずす。長時間使用しないときや交流電源で使用するときも取りはずす。
- 新しい電池と使用した電池、種類の違う電池を混ぜて使わない。

⚠注意

乾電池、ボタン型電池について

- 火のそばや直射日光のあたるところ・炎天下の車中など、高温の場所で使用・保管・放置しない。
- 外装のビニールチューブをはがしたり傷つけたりしない。
- 指定された種類以外の電池は使用しない。

⚠危険

充電式電池について

- 指定された充電器以外で充電しない。
- 火の中に入れない。分解、加熱しない。
- 火のそばや直射日光のあたるところ・炎天下の車中など、高温の場所で使用・保管・放置しない。
- 液漏れした電池は使わない。
- 機器の表示に合わせて⊕と⊖を正しく入れる。
- コイン、キー、ネックレスなどの金属類と一緒に携帯・保管しない。ショートさせない。
- 外装のビニールチューブをはがしたり傷つけたりしない。
- 指定された種類以外の電池は使用しない。
- 使いきった電池は取りはずす。長時間使用しないときも取りはずす。

日本国内での充電式電池の廃棄について

Ni-MH

ニッケル水素電池は、リサイクルできます。不要になったニッケル水素電池は、金属部にセロハンテープなどの絶縁テープを貼ってリサイクル協力店へお持ちください。

充電式電池の回収・リサイクルおよびリサイクル協力店については、一般社団法人JBRCホームページ http://www.jbrc.net/hp/contents/index.html を参照してください。

著作権と商標とライセンスについて

著作権について

- 権利者の許諾を得ることなく、このマニュアルの全部または一部を複製、転用、送信等を行うことは、著作権法上禁止されております。
- あなたが録音したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権法上権利者に無断で使用できません。著作権の対象になっている画像やデータの記録されたメディアおよびメモリースティック™メディアは、著作権法の規定による範囲内で使用する以外はご利用いただけませんので、ご注意ください。
- 本製品はメモリースティック™ メディアに対応しています。
  M2™ はメモリースティック マイクロ™ の略称です。本文では略称M2™ を用いて記述します。

商標について

- Microsoft、Windows、Windows Mediaは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- macOSは米国その他の国で登録されたApple Inc.の商標です。
- Pentiumは米国Intel Corporationの商標または登録商標です。
- 本機はFraunhofer IISおよびThomsonのMPEG Layer-3オーディオコーディング技術と特許に基づく許諾製品です。
- SDXC、SDHC、SD、microSDXC、microSDHCおよびmicrSDロゴはSD-3C, LLCの商標です。

- メモリースティック™、メモリースティック PRO デュオ™、メモリースティック PRO-HGデュオ™、メモリースティック マイクロ™ (M2™)および、 MEMORY STICK。 は、ソニー株式会社の商標または登録商標です。

MEMORY STICK

- MagicGate™はソニー株式会社の商標です。
- "DSD"は、商標です。

DSD
Direct Stream Digital

- Sound Forgeは、米国またはその他の国におけるMAGIX Software GmbH の商標または登録商標です。

その他、本書で登場するシステム名、製品名、サービス名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中では®、™マークは明記していません。

This product is protected by certain intellectual property rights of Microsoft Corporation. Use or distribution of such technology outside of this product is prohibited without a license from Microsoft or an authorized Microsoft subsidiary.

ライセンスについて

ライセンスに関する注意

本製品には、弊社がその著作権者とのライセンス契約に基づき使用しているソフトウェアが搭載されております。
当該ソフトウェアの著作権者様の要求に基づき、弊社はこれらの内容をお客様に通知する義務があります。
ライセンス内容(英文)に関しては、リニアPCMレコーダーの内蔵メモリー内に記録されています。
リニアPCMレコーダーとパソコンをマスストレージ接続し、「LICENSE」内にあるファイルをご一読ください。

GNU GPL/LGPL適用ソフトウェアに関するお知らせ

本製品には、以下のGNU General Public License（以下「GPL」とします）または、GNU Lesser General Public License（以下「LGPL」とします）の適用を受けるソフトウェアが含まれております。
お客様はGPL/LGPLの条件に従いこれらのソフトウェアのソースコードの入手、改変、再配布の権利があることをお知らせいたします。
ソースコードは、Webで提供しております。
ダウンロードする際には、以下のURLにアクセスしてください。
http://www.sony.net/Products/Linux/
なお、ソースコードの中身についてのお問い合わせはご遠慮ください。
ライセンス内容(英文)に関しては、リニアPCMレコーダーの内蔵メモリー内に記録されています。
リニアPCMレコーダーとパソコンをマスストレージ接続し、「LICENSE」内にあるファイルをご一読ください。

パッケージリスト

alsa-lib
alsa-utils
e2fsprogs
gcc-lib
glibc
procps
busybox
dosfstools
mdadm
udev
u-boot
linux-kernel

Information on libFLAC
Copyright c 2000,2001,2002,2003,2004,2005, 2006,2007,2008,2009 Josh Coalson

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- Neither the name of the Xiph.org Foundation nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE FOUNDATION OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

Information on libalac

Apache License
Version 2.0, January 2004
http://www.apache.org/licenses/

索引

あ行

頭出し……51
アップサンプリング……78
アナログ入力の録音……40
イージーサーチ……78
エフェクト……78
お手入れ……82
オプションメニュー項目一覧……73

か行

外部機器……45, 47, 56
外部マイクロホン……45
キーコントロール……78
クロスメモリー録音……78
言語設定(Language)……79
故障？と思われたときは……83

さ行

最後のファイル……51
再生……50
　一時停止……51
　停止……51
再生モード……79
最大録音時間……97
三脚……38
時刻表示形式……79
仕様……93
使用上のご注意……81
シンクロ録音……48
設定初期化……80

た行

デジタルシンクロ録音……48, 77
デジタル録音……46
電源……23
電池残量……24
電池設定……79
電池ぶた……23
時計……26
時計設定……79

な行

内蔵マイクロホン……37

は行

バッテリーケース……23
早送り再生……51
早戻し再生……51
ピークホールド……76
ピークメーター……41
ピークレベルランプ……42
表示窓……20
ファンクションキー設定……80
付属品……22
プラグインパワー……77
プリレコーディング……44, 77
ヘッドホン……82
ボリュームダイヤル……43
本体情報……80

ま行

マイクロホンジャック……45
メッセージ……88
メニュー……75
メモリーカード……28
メモリーカードスロット……28
メモリーが一杯です……42
メモリー切り換え……79
メモリー残量……42
メモリー初期化……80

ら行

リスト表示形式……79
リミッター……76
リモコン設定……79
録音……37
録音一時停止……42
録音先フォルダ……75
録音停止……42
録音前の準備……37
録音モード……75
録音モニター……43

アルファベット順

A-Bリピート ……52
ACCESSランプ …… 24, 28
ACアダプター…… 25, 82
DC IN 6Vジャック ……25
DPC（速度調節）……78
HOLDスイッチ……17
INPUTスイッチ…… 40, 45, 47
LCF(Low Cut)……77
LED……79
LIGHTボタン……16
LINE IN(OPT)
ジャック …… 45, 47, 48
LINE OUT (OPT)
ジャック ……56
MIC ATTスイッチ ……38
MIC（マイクロホン）
ジャック ……45
POWERスイッチ ……24
REC LEVELダイヤル ……41
SBM(Super Bit
Mapping)……75
S/N 100dB ……77

記号・数字

▶▶Iボタン……51
I◀◀ボタン ……51
❚❚PAUSEボタン…… 42, 44, 51
▶ボタン…… 50, 52
●RECボタン ……41
■STOPボタン…… 42, 51
🎧（ヘッドホン）
ジャック …… 43, 50

お問合せ窓口のご案内

リニアPCMレコーダーについてご不明な点や**技術的なご質問、故障と思われるときのご相談**については、下記のお問い合わせ先をご利用ください。

- **ホームページで調べるには ⇨ リニアPCMレコーダー「サポート・お問い合わせ」へ（http://www.sony.jp/support/ic-recorder/）**
  リニアPCMレコーダーに関する最新サポート情報や、よくあるお問合せとその回答をご案内するホームページです。
- **電話・FAXでのお問い合わせは ⇨ ソニーの相談窓口へ（下記電話・FAX番号）**
  - 本機の商品カテゴリーは［リニアPCMレコーダー］です。
  - お問い合わせの際は、次のことをお知らせください。

  ◆ セット本体に関するご質問時：
  - 型名：PCM-D100
  - 製造（シリアル）番号：バッテリーケース収納部に記載
  - ご相談内容：できるだけ詳しく
  - お買い上げ年月日

  ◆ 付属のソフトウェアに関連するご質問時：
  質問の内容によっては、お客様のシステム環境についてご質問させていただく場合があります。上記内容に加えて、システム環境を事前にわかる範囲でご確認いただき、お知らせください。

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などはホームページをご活用ください。 **http://www.sony.jp/support/**

使い方相談窓口
フリーダイヤル……0120-333-020
携帯電話・PHS・一部のIP電話… 050-3754-9577

修理相談窓口
フリーダイヤル……0120-222-330
携帯電話・PHS・一部のIP電話… 050-3754-9599
※取扱説明書・リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。

FAX（共通） 0120-333-389

左記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に**「303」+「#」**を押してください。直接、担当窓口へおつなぎします。

ソニー株式会社　〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

4475415 05（1）

©2016 Sony Corporation　Printed in China

4-475-415-**05**(1)